守月史貴
KAMIZUKI SIKI
神さまの怨結び8
かみさまのえんむすび
RED

神さまの怨結び 8

かみさまのえんむすび

守月史貴

Champion RED Comics

くちなわ
蛇
■怨結び（えんむす）の呪いを授ける神。呪いの元となる自身を縛る封印が減るにつれ、心を取り戻しつつあった。最近はクビツリを意識するようにもなり、彼の想いを叶えるため、呪いを強制的に剥がし戻すという行動に出てしまう。その影響で神の座を追われることになるのだが……。
何が神だ!!
そんな理由であやつを裏切るつもりか!!
初めまして死体のお兄ちゃん
コウ
紅
■蛇（くちなわ）を神の座から追い出し、真なる神を名乗る。蛇と違い、髪が白い。普段は雰囲気も口調も幼い感じだが、不遜な言動、態度を感じると豹変、高圧的な態度と口調となる。
怨結び（えんむす）の呪いとは??
対象者と交わり、その者を消滅させる呪い。代償は交わりとされているが、真の代償は行使した者も世の縁から外れることで、その外れ方は人により様々。

俺の相棒は『蛇』であって『紅』じゃねえ

クビツリ

■赤縄で首を吊って以来、呪いを望む少女を蛇の元へ導く役を負う。今も死んでいる状態で、とある事件で左腕を失った。神社と呪いを知る宮内幸司を角田梨世の怨結びで消させないため奔走。蛇が神の座を追われることになったのだが……。

怨結びに関わってしまった人間たち

乙梨 叶 おとなし きょう

■かつて蛇を殺そうとしたクビツリに恋する少女。怨が刻まれたクビツリの左腕を持っている。蛇への殺意は未だ消えず……。

櫻 さくら

■呪いで同級生を消してしまい、今は刑事として怨結びを追う。呪いで失ったのは恋愛感情。そのため後輩を傷つけてしまった。

名無 ナナ

■呪いを使った安登まつりの死産となった子の魂が母体に宿り、名無となった。クビツリに懐いており、ある意味いいコンビである。

私に殺されに来てくれたんですか!?

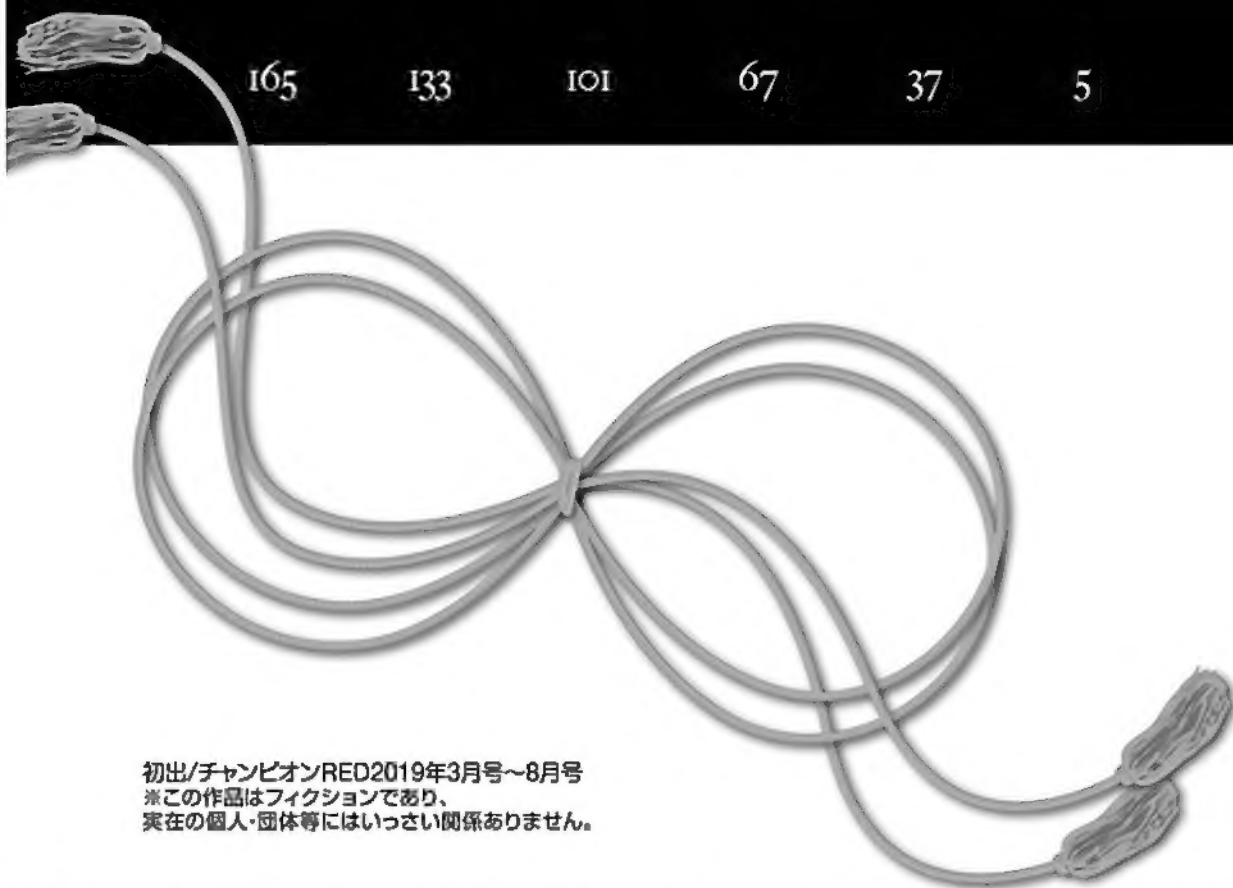
真なる神を名乗る紅に神社を追われた蛇が、現世に顕れた。その足元には、呪いの印が入ったクビツリの左腕が！　現世に堕ちるにあたり、強い縁のあるクビツリの左腕のもとに導かれたのだろうか……。

だがその腕の持ち主は、クビツリに恋し、かつて蛇を殺さんとした乙梨叶。クビツリの腕を抱え、眠る蛇を見つけた叶は、蛇への殺意を再燃させ、その腕を蛇の首へ伸ばす！

一方、クビツリは、紅に「蛇を口説き落とせば神の座を蛇に譲る」と言われ……。

神力を失った蛇の首に、叶の凶手が伸びる！　果たして――――!?

目次

初出/チャンピオンRED2019年3月号～8月号

第四十一節 ❖ 神さまの女子会

クビツリさん……

クビツリさん

クビツリさん――……

それまでこの腕を『私に』預けると
——そうクビツリさんが言ってくれたんですよ……
神が死ねば今度こそ怨結びは終わりますよね？
怨結びを使い切る…それもいいけれど
目の前のあなたを殺せば!!
大丈夫…簡単に死なないのは もう分かってますから
方法なら沢山考えてあるんですよ——
ぐ…ぐ…っ
ちっ
ちっ
……あら？
——失神してる…
この程度で？嘘でしょう？
………
んー…？

ザザ…
ザァ…
……この桜が――？

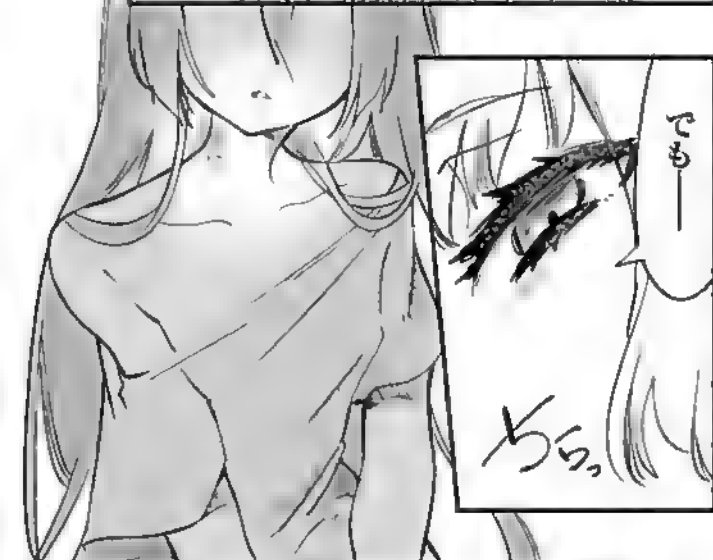
そうだ
この樹には昔からアカナワ様が宿っちょる

この樹と一つになればお前はヒトでなくなるが
村は救われる――
……受けてくれるか

……無論だ
それが妾の役目……
スル…
……ただ ひとつ

ひとつ
心残りがあるとすれば――…
ん……

はっ!!
……
ここ…は……?
妾は……
あの後——
起きました?

貴様……何を企んでおる
妾を殺すのではなかったか
……あなたがクビツリさんを縛る「蛇」なら
あらゆる手段をもって殺しますよ
でも――
ちらっ
今のあなたは普通の人間と変わらない……
以前会った時の威厳のカケラも感じない
あなた――
本当に神さま?
……!
――そうか

禁を犯した妾は
この現世に
『棄てられ』たのか……
では
この肉体は
本当にただの──
四六時中一緒に
居ながら
それに
クビツリさんとの
関係も無いみたい
だったので
『とりあえず』殺すのは
保留にしといてあげます
貴様!!
妾の寝てる間に
何を──!!
無理しない方が
いいですよ
熱がありますから
ぼふっ
野外で一晩素っ裸って……
今何月だと思ってるんです…?
ね…っ？
妾が？
いや……
それよりもっ

いいから早く治してください
話はそれからです
ほわぁ…
――なんだ…これは？
かつて妾に躊躇無く刃物を突き立てた娘……
そんな相手が何故…？
しかし
くぅ
くぅ
ぐきゅるるる
きゅー
おもっ
考えようにも頭が…
これだけ食欲があればもう心配はなさそうですね
それじゃ次は――
……少し
大人しくしてもらいましょうか
え

蛇を…おとす……？

たぶらか…す
——って……

そう

まんざらでもないだろ です？

……ははっ
お前馬鹿か？
俺が？
あいつと？

ぐ

ぐぐ

ジョークのつもりならだだ滑ってんぞ

ぐ

にゅふふふ
図星だったか です？
死体のおにいちゃん
吾の首を絞めるほど動揺しちゃって☆

アレが『何のせい』で神でいられなくなったのか
考えたことはあるのです?
何…って ──それは 角田梨世から呪いを剥がしたから……
『誰のため』に?
……
ここまで絶望的に鈍いとさしもの吾でもイラつく です☆

チチ・
チュン
かみ……
妾の髪……
こっちの世界じゃ さすがにあの長さは 非常識ですよ
昨日からどんだけ 落ちこんでるんですか
この服はなんだ…? 身体にぴったり付いて 不愉快だ……
小さな服が中学の制服しか なかったので……嫌なら お客の前でも裸で過ごします?
客……? 妾にか?
——ええ
キィ…
あなたの 向き合うべき・・・・ 相手ですよ

へえー！
蛇捕まえたって マジだったんだ！
……お…… お久しぶりです 蛇…さん
な
何故……っ そなたらが!?
そりゃ蛇が居ると 聞いたら来るに 決まってるじゃん
僕は 被害者の会 繋がりで
先に殺されちゃ たまんないしね(笑)
まっ…名無ちゃん！
私は名無ちゃんから 勤務中に 呼び出されて……
冗談でも軽率に 殺すとか物騒な 話は——

冗談じゃないよ
ねえ……
教えてよ蛇ア
叶がただの人間と変わらないって嘘つくんだよ
そんなワケないよな？
無力なフリしてまた
僕を騙してんだろ？
名無ちゃん！
……よい
そなたらには
話そう……
妾の…置かれた
状況を――
はああ!?

つまり蛇には　もう
なんの力も無くって…
怨結びの神が
他に居るだって!?
それじゃ今
お前を殺しても
無駄じゃないか!
そしてクビツリさんは
今そっちの神に
仕えている……と
恐らくな
だが元より罰は
覚悟の上——
人の身となった妾では
釣り合わぬやもしれぬが
殺して気が済むのなら
妾は甘んじて受け入れ…
叶だって!　クビツリが
手に入らないんじゃ
なんの意味もないだろ!?
まあ……
そうですね
別のやつが神になって
ふんぞり返っているなら
そっちを叩かなきゃ……
ああクソッ
だからそれが
無駄なんだっての
貴様は——……
妾が憎いのでは
なかったか

…大嫌いだ
本気で殺すつもりだった
でもそれは お前を倒せばパパとママが帰ってくるかもって期待があったからで
呪いの元凶が他に居るんじゃそれももう……
名無ちゃん……
私が蛇さんに聞きたいことは一つだけ
……あなた……クビツリさんのことどう思ってます？
…は？
私の行動はそれ如何です
万が一ライバルになるのなら躊躇無く殺せますから
私はクビツリさんが好き！彼と一生添い遂げたい！
あなたは!?
ぶっちゃけ好きなんでしょう!?
違うわ!!!

嘘!!
だって何度も何度も彼のピンチを助けてるらしいじゃない
だからあやつは妾の僕で
僕ですってぇ!?
あああ今度は乙梨さんを止めないと
えーとえーと

あっあの!
…蛇さんホントに分かってないみたいなので
こんなのはどうでしょうかッ

…なんだこれは?
恋愛映画…劇…そう 物語です!
同年代(?)の恋愛を学んで自分を振り返ってみてはいかがです?

ベタな青春モノだけど結構話題なので私観たかったんですよー
櫻の趣味じゃん
仕事仕事でこんなチャンス滅多に無いので……

……なんか…映画はよく分かりませんでした……

話題作でも恋愛モノはダメみたい…

代償か…ダメダメじゃん…

はあ……平行世界に分かたれても惹かれ合う少年少女……

まるで私とクビツリさんのよう❤

あやつはそんな年でもあるまいに

やっぱり創作よりリアルな恋バナが一番ですよね！

ってことで まずは先輩の桜さんからどうぞ

えっと私……私は中学の時に呪いの代償で恋愛感情を失って——

稲葉(いなば)を消した罪悪感から色んな人と付き合いました……

大学生や学校の教師と関係を持ったこともあります…

まあ全部無駄だったんですけどね……

うわぁ

そのせいでこの間も
同僚をひどく
傷付けちゃったし…
私なんて…
私なんて…
あ〜なんか
めんどくさいから
つぎ
名無ちゃん！
ええ…？ 女のことは
よく分かんないよ…
パパのことを想うたび
なんか胸？ 息が苦しくて…
安登…まつり……
気持ちは昂るのに
切ない…変な気分だよ
でもまぁ
ママの記憶を
覗き見た感想なら
言えるかな
僕が出来たときは
恥ずかしいとか痛いとか
もうぐちゃぐちゃで
言葉にできないけど途中から
ちょっと気持ち良く…
あっストップ
ストップー
ありがとう♥
前半はまさに
恋する乙女って
感じですね
最後は……
私ですね♥

クビツリさんは
頼りないところが
好きです
ついつい
助けてあげたく
なっちゃうの♥
誰より怨結びを
忌み嫌っているくせに
生意気なクソガキに
パシらされてる
ところとか……
あ?
そんな彼が
つまらないごとで
呪いを使おうとした
馬鹿な私を正してくれた
怖くてそっけない
態度とは裏腹に……
――……そうか
私を本気で心配して
叱ってくれたのは
彼だけなの
本当は誰より情が深くて
…とても…弱い人
……あやつは…そういう奴だの…
それにぃ……

誰かさんが与えた呪いのせいで本番は寸止めでしたけど

彼言ってくれたんですよ

私のこと好きだ……

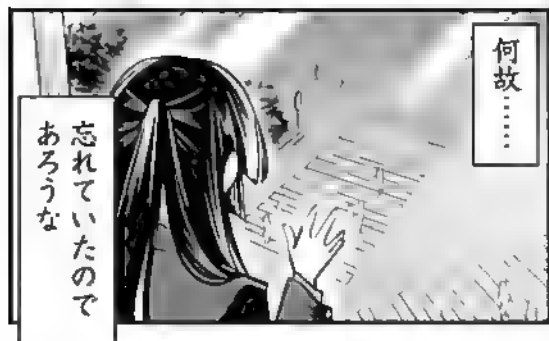
って♥

「からおけ」とやらの室内は空気が悪くてかなわん

外の空気を吸ってくる

パタン…

——乙梨さん…

さすがに今のはちょっと
意地悪というか品がない……

当時の妾は知っていたはずだ
あやつの感覚も行動もある程度視ることはできたのだから
そこで見て…っ見て、いろ
くと♥
これも…褒美…っ♥
――そうだ あの時はそれに感化され
あられもない姿を晒してしまったな…
だが――
それだけだ
何も思うところなどなかった……!!
それが何故今になってこうも苛立つ――

〝好きなんでしょう？〟

…馬鹿な!!

妾があの娘に嫉妬したとでも?

そんなことは万に一つもあり得ん!!

あり得ぬ…が——

…もし…もしも仮に『そう』だったとしたら

……く

ふふ……

一度そこまで堕ちてしまえば妾はもう——

……いよいよ駄目だろうな……

——妾の感情を縛る封印の無い今だからこそ分かる

あん？
誰よ
おお!?
かっわ…
てか めちゃクソ
かわいくない!?
君 中学生？
1時間ですね
305号室になります
お煙草は
吸われますか？
あっ……
お客様!?

だいじょうぶ
変なこと
しないってマジ
何故
動けぬ⁉
飲んでみ⁉
ちょっっとだけ！
ねっ
動け‼
このまま
では

悪い!
こいつ俺の
連れだから

ぽす…
は？
なんだ お前——
……ちっ
めんどいから放っとけよー
うっせ……ガキ連れてとっとと出てけよ！
バタン…
………
…あー……
お前…蛇…だよな？
髪……切ったのか…
交差点からたまたま…窓にお前っぽいの見えたんで
瞳も赤いし
慌てて上ってきたんだけど……
…あれ？ 人違い…じゃねえよな…？

へっ…
クビツリ…
クビツリ
クビツリ!!

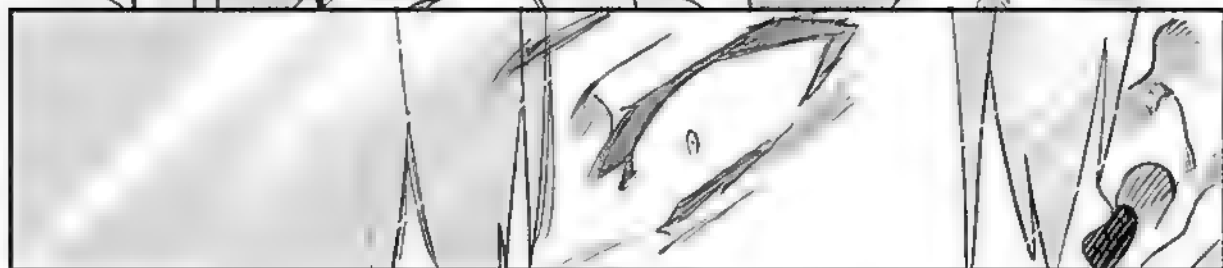
「別にそなたの助けなどいらぬ」

「だいいち来るのが遅すぎるのではないか？」

「どうせ道草を食っていたのであろ」

おおい…怒ってんのか？…悪かったよ

お前が消えてから随分経っちまったもんな

「相変わらず無愛想な面しおって」

会いたかった……っ
会いたかったぞ……っ
クビツリぃ…ッ
……
いま…
なん…て……
『誰のため』に神でいられなくなったのか
考えたことはあるのです？

〝生前の俺は死んでまで
あいつに会いたかったのか…〟
〝それじゃ　まるで〟
〝俺があいつのこと――…〟

第四十二節❖恋模様、荒れ模様

『会いたかった――』そんな言葉が自然と口をついて出てしまった

まるでただの人間の――女のように

……妾は 妾は――

──戻らぬ!!

名無…に

櫻…？

そうか…！
警察が蛇を保護していたのか――

ああ
いえ

蛇さんを介抱したのは乙梨叶さんです

彼女もここに来てますよ

叶……が一緒なのか!?

まさか――
だってあいつは！

ええ
あなたは彼女のことをよく・・・ご存じなのでしょう？

蛇さんと一緒に
部屋で待ってる叶さんの元へ
戻っていてください
万が一彼女が蛇さんに
何かしでかさないよう
見張っていて欲しいんです
ええー!?
なんで僕が……
せっかく
クビッツリが
いるのにっ

悪い名無……
俺からも頼めるか
その…あいつは
神だった頃の蛇を
一度殺してるんだ

……今の蛇なら本当に
そのまま死んじまう

……ちぇ
分かったよ
クビッツリ!
貸しひとつ
だからな!
ホラ行くよ

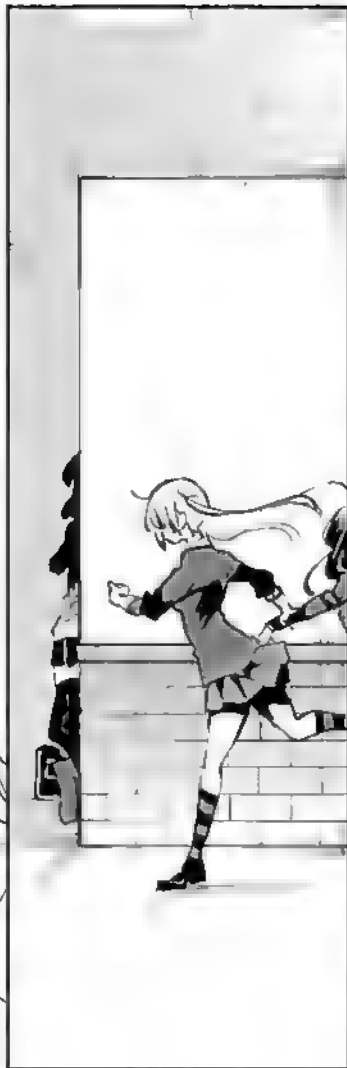
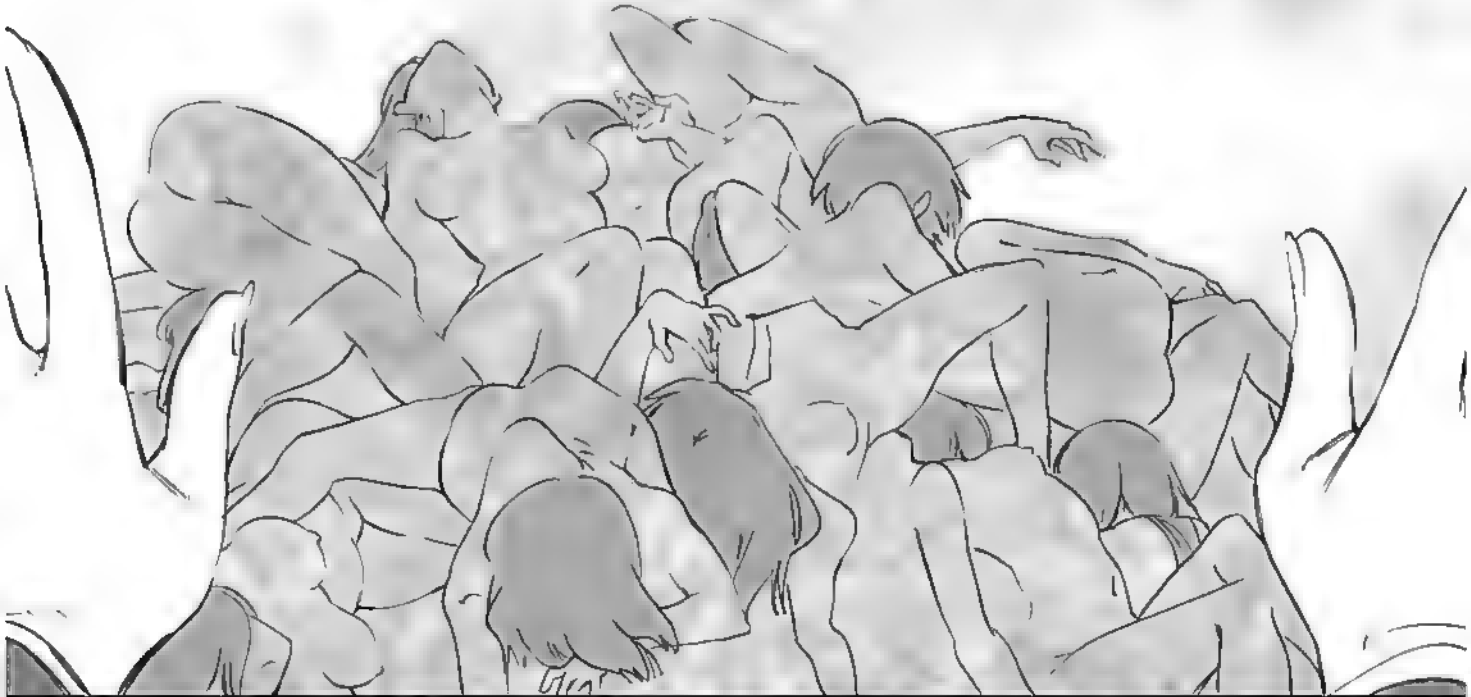
あれっ
会計は済ませて
おきました

私たちも出ましょう
……女子会はここでお開きです
フェス
蛇ー……は無理そーだから……叶でいいや
対戦しよ対戦！
はあ……格闘ゲーム…ですか？
触ったこともないんですけど……

夜でもないのにぎらぎらと明りを灯しおって…
先ほどの『からおけ』といい

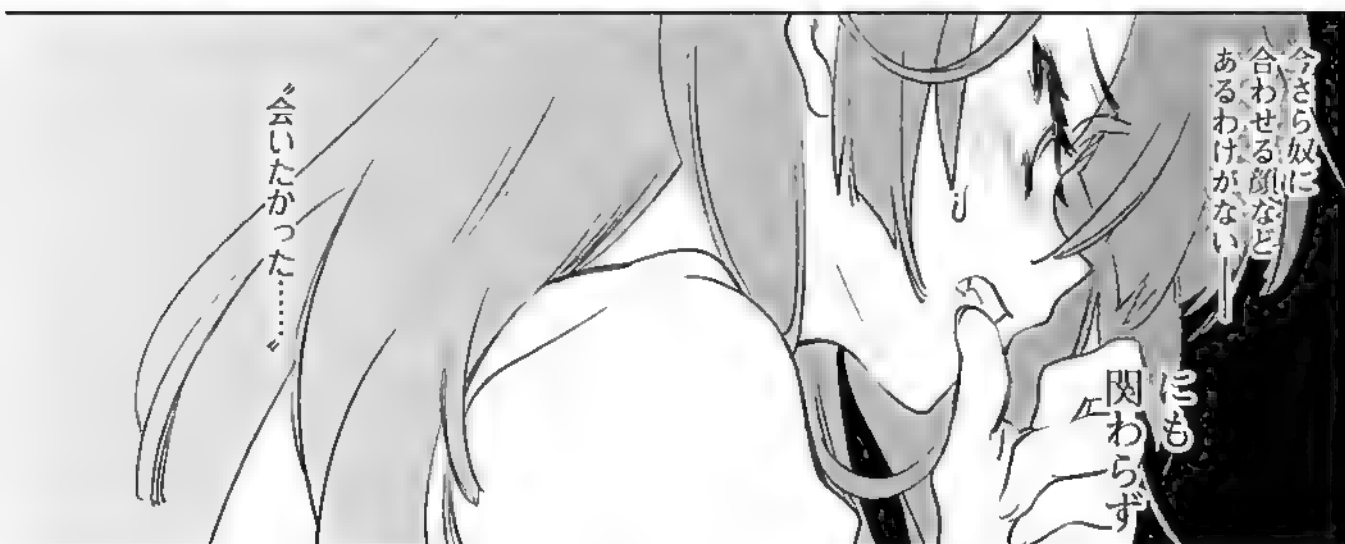
……なんとも喧しいものだな…今の現世は

むっ
なんだ?……この人形の山は

こう幾重にも積まれては
人形とはいえ気の毒だの……

……いや
これが妾の積み上げた呪いの犠牲者ならば——
この程度では済まぬはずだ

それを気の毒
などと――
どの口が
ほざくのだ

かつて妾と
指切りを
交わした童
それがクピツリとも
気付かず この忌まわしい
呪いへと巻き込み

怨結びを終わらせる
約束も果たせぬまま
神の資格を
奪われた……!!

今さら奴に
合わせる顔など
あるわけがない――
にも
関わらず
〝会いたかった……〟

あああああああ
ああああああ
くしゃ
くしゃ
くしゃ

はっ
しまった
髪がっ
櫛は神社に
置きっぱなしだと
いうのに

櫛――…

心残りとはなんだったか……
それにあの御神木
…夢の女も妾と同じ櫛を持っていたな
……ということはやはりあれはかつての妾…なのか
アカナワ様とは——…

――あん時は悪かったよ
散々世話になったのに　その……勝手に逃げちまって

いえ　それについてはこちらに非があります
同僚があなたに発砲したこと……

未然に暴走を防げず申し訳ありませんでした
ペこり
やめろって
そもそも元凶は――

……ともかくそのことなら気にしないでくれ
そうですか
では

合意とはいえクビツリさんが女子高生とみだらな行為に至った件につきまして

…冗談ですよ　あなたも一応年齢不詳ですし
見た目はハタチそこらですけど
え…なんで？　なんでそれ知ってんの??
それはさておき
…蛇さんをどうするおつもりです？

連れて帰ると仰いましたが
私は刑事としてみすみす連れ帰させるわけにはいかないし
何より本人は嫌がってるみたいですよ？
…っあいつが何考えてるのか分かんねえよ……
けど蛇を神に戻す条件のためにはまず帰ってくれるよう説得しねえと

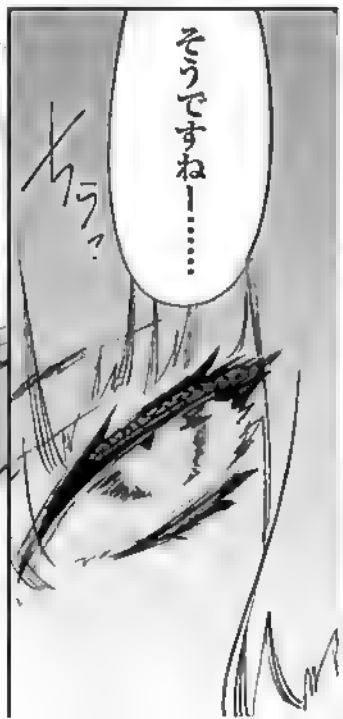
……じゃなきゃ怨結びはこのまま永遠に終わらねえ……！

今まで怨結びに巻き込まれた全ての者を
元通りにできるやもしれぬ
……

──彼女を神様に戻す算段があるんですね
ちなみにそれはどういった方法で？

………
それは──……

……野暮は承知で訊くけどさー
叶はクビツリが好きなのになんで会わないの？
彼の方から会いに来てくれるって約束したのに
私から会いに行くのは失礼でしょう？
へ〜そーいうもん？
私だって反省してるんですよ
……私が彼に消されることを望んだために
その左腕を失わせてしまったこと……
うげっっ!?

きっと彼にとっては
私の愛が重荷に
なってしまったの……
だからもう
押しつけがましい
愛し方はやめたんです
You Loose
……
…えげつねー
蹴り方しといて
よく言うよ
誰がやったこと
ないって？
ハメ殺された…
今のは適当に打って
ハマったパターンを
繰り返しただけです
おっそ、
で？
どーすんのさ
蛇は
どーせさっきの口ぶりだと
クビツリと蛇の一部始終も
見てただろ
殺すの？
そうですねー……
ちらっ
……蛇さん
それ気になるなら
プレイします？
おごりますよ
……ぷれい？

あんな年端もいかない女の子を「たぶらかせ」だなんて言われて
あなた素直に従ってるんですか!?
外見はだけど
呆れた……
正直見損ないましたよ
おっ俺だって そんなつもりねえよ!!
ただ運よく見つけて 咄嗟に駆けつけて……
つまり今どうしていいか分からない と
……
……その後どうするかなんて 考える余裕なかったんだよ
はー……じゃあ聞きますけど
あなたは叶さんと男女の関係がある上で
蛇さんに対してはどういう立ち位置なんですか
どうって……

蛇さんが神でいられなくなった『原因』――
彼女はあえて触れませんでしたが…私の憶測が正しければ
あなたを好きになってしまったから
恐らく神様としての務めよりあなたを優先させたから……
だったんじゃないですか？
あいつをそんな風に言うんじゃねえ!!
…やめろ!!
あなたが今仕える神様とやらが
どういう意図でその条件を出したのか分かりませんが
たぶらかすまでもなく蛇さんは
最初からきっと――
どいつもこいつも――……

「あなたを好きになってしまったから」
「今仕える神様とやらがどういうつもりでその条件を――」
たぶらかす――
……までもない……??

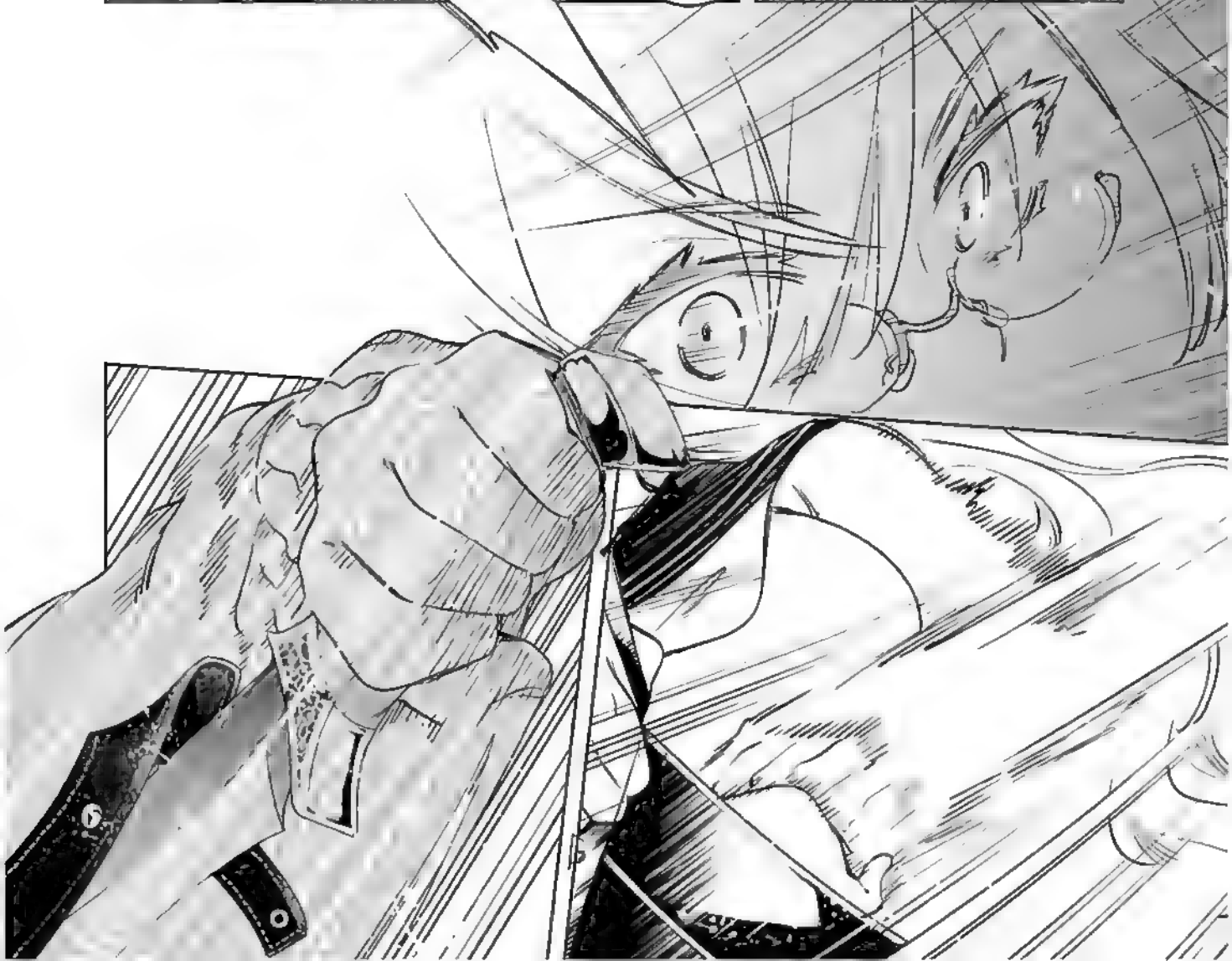
騙された――!!

蛇を『堕とせ』ってのは
つまり
神に戻る意思を
資格を
完全に
失わせることで
本当は『逆』――

あっ
クビツリさん!?
俺はあいつに

『嫌われ』なきゃならなかったんだ――
いけ…
いっ…
けえ!!
ポ…
ト
とれた――!!
あっあっあと…
ちょっと…
あ～あ
ぬいぐるみひとつに
いくらかけてんだよ
明らか
大赤字じゃん
僕なら1発でとれるのに
……ふわふわだ
もに
…目つきの悪さが
少しあやつに
似ておるな……
このような作りの
人形は見たことが
無い……
もに
うふふ
おめでとう
ございます♡

さっきはなんだか落ち込んでる様子だったので……
気も紛れたようで何よりです
はっ
べ 別に落ち込んでなど…
しかしそうだな
この時代の遊戯もなかなか悪くない…
楽しんで頂けたなら幸いです
私からあなたに贈る
・・・・・・せめてものはなむけですよ

叶
さすがにここで殺るのはまずい
ナイフを下ろせよ
…っていうか今蛇が殺されたら
僕がクビツリに怒られる!!!
——もう一度聞きます
クビツリさんのこと…どう思ってます?
叶!!
なっ何きいきなり…その話ならもう
ああ聞き方が悪かったですね——
それじゃあ

私がこの後クビツリさんと
再会して愛を確かめ合うところ・・・・・・
あなたに
見届けて欲しいんです
……引き受けて
くださいます？
……クビツリが？
こやつと
交わるところを……？

妾はずっと——ただ……見てるだけ
——あんな風に？

──嫌(いや)だ
──そう
ふふ♡
やっと自分の気持ちを認めましたね…

散々神様気分で数多の女の子たちを呪いで穢しておきながら……
おめでとう
あなたは私の殺すに値する人間だわ
ッ…
……で？

あなたは人として
……『女』として
私に殺されたい？

それとも――
神として
・・・死にたい？

女と して……

神として……？

――アカナワ様は
縁結びの神……

この御神木の前で
幾度となく男女が祈り
結ばれていくのを見てきた――

――ただひとつ 心残りがあるとすれば

本当は妾も大人になって

村の女たちのように――……

ああ——そうか…
妾は
こんなくだらぬものを何十年何百年と経ってなお
引き摺っておったのか——…
あ……っ
クビ…ツリさん!?
いつからそこに——
叶……悪い
……少し蛇借りるぞ
な なんだよ あいつ—— 焦りもしないで
僕だけ必死にバカみたいじゃん
ほっ
妾の 心残りは——

——クビッツリ
……クビッツリ
どこへ行く⁉
ピタ
……
お前——
今本当にただの人間なんだってな
俺はこれまで散々虐げられてきたんだ——
クビッ…
多少『仕返し』したって罰は当たらねえ
だろ？

なんとか言ってみろよ…
あれだけ扱き下ろしてきた下僕に見下ろされて――
プチ…
とんな気分…だ……
プチ…
プチッ
――…ふ……
ふふ
…くっ
ふふふ…

ぎゅっ……
……手が……震えておるぞ
慣れないことをするでない
……阿呆め
…っ
まったく——
おおかた貴様も妾が現世へと堕とされた原因に気付いてしまったのだろうが……
たどたどしくてこっちが恥ずかしくなるわ…‼
そんなまだるっこしい方法をとるくらいなら
さっき妾を見捨てていれば良かったものを

なに言ってんだてめえ!!
神に戻るくらいならあのまま叶に殺される方が良かったってのか!?
俺との約束
はっ
喚くでない
幼子のようにぎゃあぎゃあと──
ぐいっ
少しは落ち着かんか!
ぷにゅっ
やわ…
!?
!?
……いいだろう

妾を神社へ連れてゆけ
その上でアレと決着を付けてやる――
だが……
その際には少々そなたの手を借りるぞ
は…あ？
奴の思惑を挫いた上で――
紅の化けの皮を剥がしてくれる!!

こっ紅の化けの皮を剥がす——って
何か策があんのかよ!?
今の妾に神力はないが同時にあの煩わしい封印もない
そのおかげでいくらか思い出したことがある——
妾の記憶が正しければ「紅」そのものは脅威でもなんでもない
矮小な存在だ!
!
あいつの正体を知ってんのか!?
ぴたっ
紅ってやつは結局何なん——
クビツリ
……紅と相対する前に乙梨叶と会ってやってはくれまいか
今もあの娘を……好いておるのだろ?

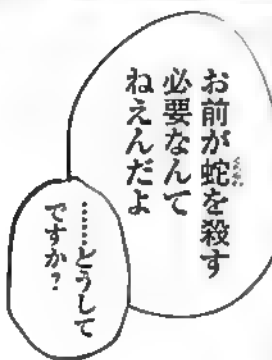
第四十三節❖神様失格

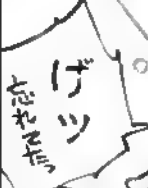
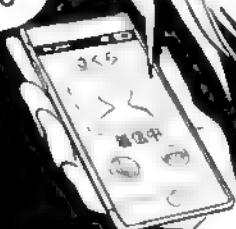
殺されかけたとはいえ 妾は乙梨叶に感謝しておるのだ
ほんのひとときだけでも……かつて夢見た
普通の娘として過ごすことができたのだから
第四十三節❖神様失格

蛇――
…おまえ……
……クビツリよ
お おう …なんだよ そんな改まって
ことの前に妾からそなたに伝えておくべきことがある
これは怨結びを終えた後の話になるが――……
そなたは恐らく消えることになる

あっ
クビツリい！
さっきはよくも
僕を無視したなー!?
こっちは体張って
蛇を守ってやった
ってのに！
名無
悪かった
悪かったって
ところで
……叶は？
おーい…
……叶
なんで
そんな
スキマに
私…これでも
クビツリさんの
助けになろうって
努力したんです…
被害者の会にあなたが
捕まった時だって…
私が名無ちゃんを殺したら
『それは違う』って また
あなたに怒られると思って

迷惑かけちゃいけない
押しつけちゃいけない……
だからどんなに
会いたくても
我慢したわ
ああ…お前には
二度も助けられ
ちまったな
あなたは
優しいから…
独りで辛い
ずうっと耐
きたんでし
…いいんです
今だけは
あの時も
我慢──
しないで
知ってますけど、
少しでも気休めに
なれば…
…このままじゃ
あなたが壊れて
迎えに来てくれる
って…
あの時も
約束したじゃ
ないですか
俺が
折れちまいそうな
時は──
決まって叶が
支えてくれた……
──じゃあどうして
さっき私の邪魔したの

私また間違えたんですか!?
どうして蛇は ダメなの??
殺さなきゃあなたを盗られちゃうのに…!!
あのなお前には
まず殺す前提から離れて欲しいんだが
お前が蛇を殺す必要なんてねえんだよ
……どうしてですか?
……まあいきなりは難しいか
それは…その
俺は いっ…今も変わらず
……叶が好きだからだよ

っ……!
クビツリ…さん……
そんで俺にとって
蛇は――…
……
…だから もし
俺に何かあった時は

……ふん
あの……女たらしめ
お
あ。
さくら
着信中
おーい クビツリ! 桜こっち来るってー
なんか置いてかれたってめっちゃ怒ってるけどー?
げッ
忘れてたっ
やべえ! 今あいつに捕まるのはまずい!
蛇!
ああ

短い間だが世話になったな
礼を言う
……桜にもよろしく頼む
……ちぇ
やっぱもう帰んのか
お前なんて とっとと元に戻っちゃえよ
そしたらまた敵同士だからな
次会ったら殺す
そうだったの
殺されるつもりはさらさらないが――
いつぞやはすまなかった
……貴様は『まがい物』ではなかったようだ
体はともかく――ひとりの『人間』だ
……ふん
さあクビツリそろそろ神社へ……
あっ
そうだ！ お前に会ったら伝えるつもりで忘れてたんだが
……なんだ
はよせい

……
……
──ほう……？
……成る程でかした！
それは紅に使えるやもしれぬぞ！
──よし そいつを回収したらいよいよ還ろうぞ
妾たちの神社へ──
ダッ
バタ
バタ
ぜーっ
くっ…く……
クビツリさんと蛇さんは!?
くくくぐ……っく……！
重要参考人をまたしても……！
がくっ…
てゆーか根さ
その二人を前に映画観てカラオケ行ってお茶して帰ってきただけって
安登パパにどう報告すんの？

あ……
……ひどい男
俺は蛇の「良心を受け持った」——あいつの半身なんだ
だからもし俺に何かあった時は叶に俺の半身を……
蛇を助けて欲しい
怨結びなんかより
よっぽど残酷な呪いをかけてゆくんですね……
あなたは

ふう……
ザッ
現世から
切り離された
廃神社――か
……思えば
なんとも
寂しい場所だの
……しかし
過去に決着をつけるには
相応しい場所だと
思わぬか
のう？
紅とやら
……
あれぇ？
おっかしいのだ
――です
吾はソレを
『堕とせ』と命じた
はずだが――

どーして あの
哀れな負け犬を
神聖なこの地に
死体の
お兄ちゃん
連れて来やがってる
ですか？
…貴様も
バラバラに
切り裂いて
屍肉に戻してやろうか
……ッ
相手を
間違えるで
ない!!

貴様の相手は
この妾だ
おおかた
肉体を得た妾にクビツリをけしかけ
神へと戻る意思を完全に喪失させようとしたのだろうが……
アテが外れて残念だったの？
何が言いたいのか分からぬのです☆
そうか分からぬか
あいにく妾は!!
こんな幼稚な体に執着などない!!
……です？
本来 妾が育てばもっとこう……!!
乳も尻も出ているはずだからの!!

……
…なに抜かしてやがるんだ です？
この平面ロリ
イラッ
――かつてヒトだった妾は……
……つまるところこんなものは偽りの体に過ぎぬ
そもそも妾の肉体なぞ残っているはずがないのだ
人の身を捨て神になったのだから
人の身……って
じゃあ
お前本当に元はただの人間なのかよ!?
そうだ
そして妾の姿を借り
言葉を真似必死に繕っている紅とやらは……
妾が神となるために乗っ取った『アカナワ様』――

この神社の桜──
樹……い？
この枯れた大木が……
紅…？
御神木であろ!?
当時でも樹齢は千をゆうに越える
村人の信仰も厚く神格化されていた
蛇の姿を真似て…って樹にそんなことできるわけ──
……だって樹だろ？
神が宿っても不思議はあるまい
こやつは乗っ取られた後も再び「アカナワ」に立ち戻らんと
息を潜め虎視眈々と狙っておったのだ
妾が人間に戻ることを望めば望むほど神格は失われる……

だから妾の隙を突くために
あの童を――
……クビツリまで
利用しおって!!
俺を……?
……そう
吾は御神木――
吾こそが
この地において
信仰された真の神
その吾が
縁結びの『赤縄』を
守り続けてきたのです
しかし――……
お前は勘違いして
おるのです
ひとつ
『アカナワ』は人間が
勝手に御神木の吾と
赤縄を一緒くたにして
付けた呼称……

『赤縄』はあくまでも縁にまつわる力を持った『道具』に過ぎず
故に『赤縄』の変わり果てた『蛇』……という神など存在しない
なんだと……？
そしてもうひとつ
なっ……
その肉体は紛れもなく
実際吾のなかに塗り込めた巫女の肉をかき集めたものだ です☆

かつて吾の佇む村は
水路を巡り——

隣村と長いこと
対立していたのだ
ですよ……

よりによって
こんな時に
干ばつだ……

上流の村が
水の流れを
制限しちょる

田畑は死に
井戸は涸れ

この村も
いよいよ
終わりじゃ……

交渉は…

今朝方 隣村に
行った者は
どうなった⁉

!

いったい
何があった⁉

何故
こんな……

やつ…奴ら
話を聞く気も
ない……

最初からわしらを
見殺しにする気
だったんだ

やはり
無駄だった
のだ……

このまま
では——

……待て

…今こそ……『巫女』を使うべきじゃないのか
むかし爺様が流れの者に教わったという
『呪い』とやらを
しかし…そのためには『アカナワ様』を犠牲にするのだろ？
そっそうです！私たちもアカナワ様のおかげでこうして子供を授かって
だいいち流れの者の話など本当かどうかも……
このままでは村人全員餓死するぞ!!
そのために代々村ぐるみで儀式のための巫女を養い続けてきたんだ——
今使わずしていつ使う!?

おい……
『巫女を使う』
ってまさか

村人たちは御神木と巫女を
文字通り『ひとつ』にすることで
吾を乗っ取り

その力でもって
縁結びの象徴であった
『赤縄』を穢し

呪うための『蛇』へと
変貌させた――…

……ようやく己の罪を思い出したかの?
ですよ
この——『呪われた民』め

……っ
なんだよ…それじゃまるで人身御供…
だいいち樹に人間を塗り込むなん…て……

『村は救われる』——……か
その結果がこれとは
あんまりではないか……
で・も☆

寛大な吾はその哀れな巫女をわざわざ復元して
なんと人間に戻るチャンスをやったのだ！ わおです☆
…村の娘が羨ましかったのであろ？
神社から出ることも許されず……
んっ…!?
自由に遊ぶ同年代の子らをただ眺める毎日
やがて年頃になれば夫婦となって子をもうけ……
んぅっ！
…そんな普通の人生に憧れておったのだろ
…です？
あっ
……そ
……そう だ…
妾は……
人に……なりたかった…
うあ…っ
やめろてめえ!!
蛇から離れっ…

ぐッ!?

貴様……!!

──そう
神社に軟禁されて
育った妾はの……

憎たらしいことに
紅の言う通り

人を恋慕うことに
憧れておったのだ

……そう
『憧れ』

それをいつしか
クビツリ……

そなたに
当てはめて
おったのだ

……全く
情けない話
だが──

神であるべき妾が
人と結ばれることなど

叶わぬ願いだと
いうのに

だからせめて

クビッリ
そなたに妾を殺して欲しい
は……？

…じ
冗談…だろ？ 今更そんな——
お前のこと …殺すなんて
…できるわけ ないだろ!?
その肉体を 壊せば!!
……今度こそ人間に 戻ることも転生することも 叶わぬですよ
未来永劫…… 朽ちることなく
輪廻に戻ることも 叶わず 永遠の時を 独り彷徨うことになる
貴様にその 覚悟があるのか!?
死なねば 妾は神に 戻れぬ
みなまで 言わせるつもりか？ 全く—— 鈍い男だ…

……人としての妾が愛した
『そなたに殺される』ことに
意味があるのだ
この未練は
肉体と共に
置いてゆく――
……頼む……
……くち
なわ……
……光栄に
思うが良い
妾を殺して
良いのは――
そなただけだ！

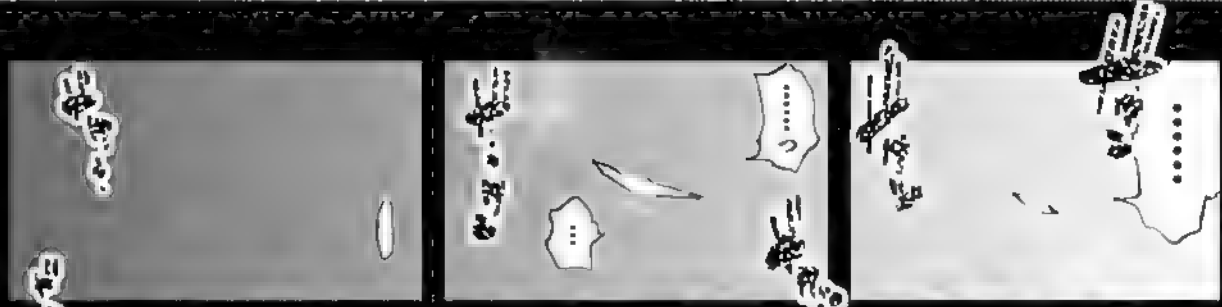
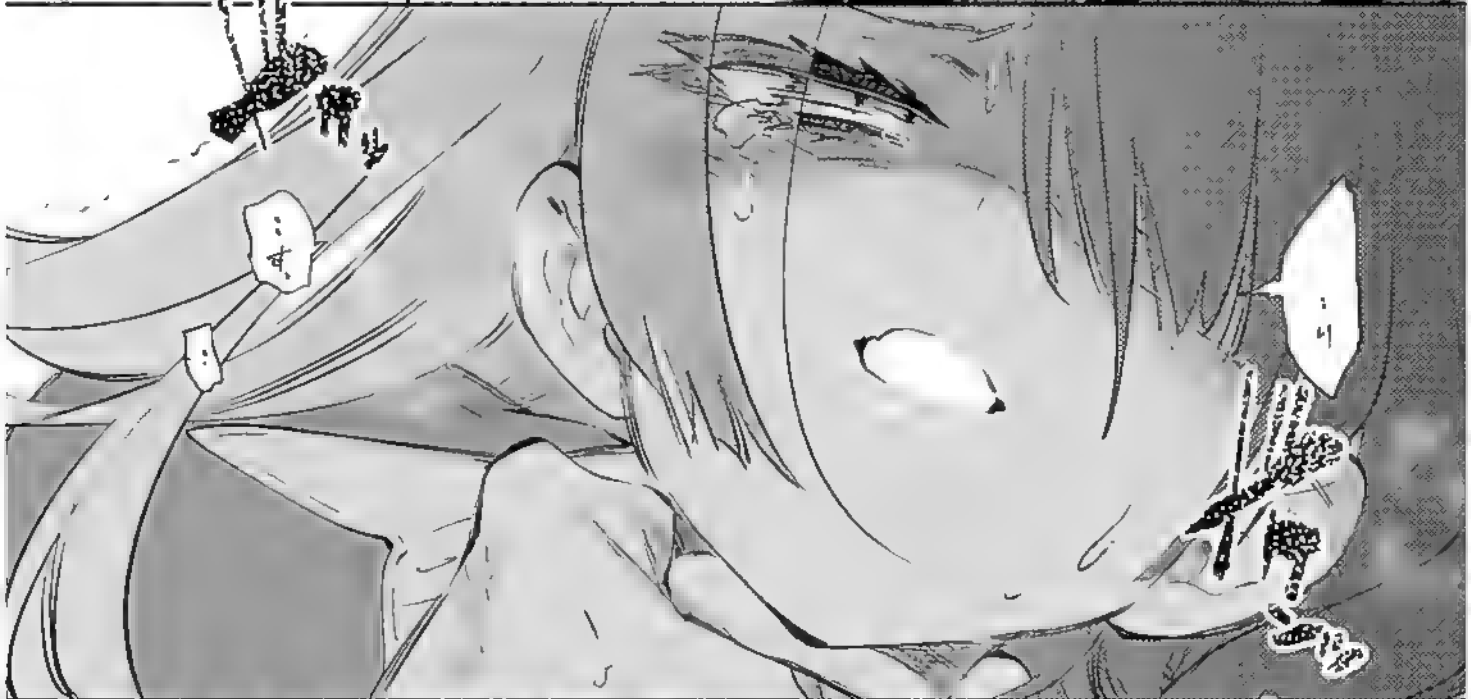
片手でもすっぽり収まるほど細い――首
こんなもの……本気で力を加えれば簡単に……
男たちに囲まれて怯える蛇を見ていながら――
いや…見ていたからこそ最悪の手段として利用した俺を責めることもなく
――妾を殺して良いのは そなただけ――……
くそ…っくそ!!
叶にあんなこと言ったそばから俺がこの手で殺すのか!!
こいつはなんの冗談だ?
それともこれがその仕返しか?
ああ分かったよやってやる!!

させる

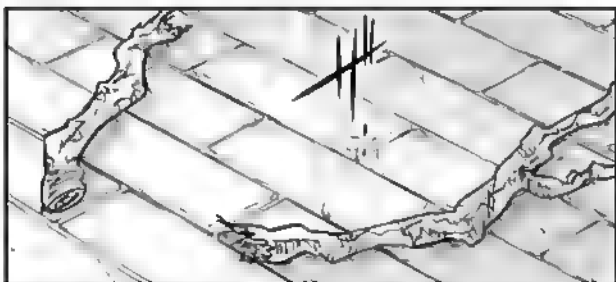
かぁ!!!

ぎ
ああああああ!!!
大人しく
見ておれ
負け犬が…ッ
村の陰謀に
負けた
貴様など
とうに役目を
終えたのだ!!
心配せずとも
貴様の大事な赤縄は
神となった妾が
責任をもって浄化する――
縁結びへと
立ち戻らせてやる
――やれ
クビツリ!!

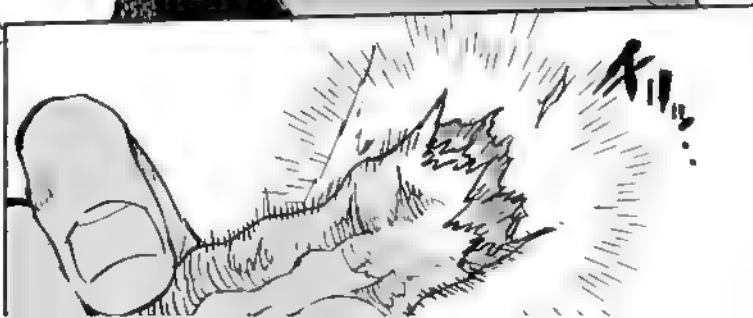
……ッ
……!?
……っ

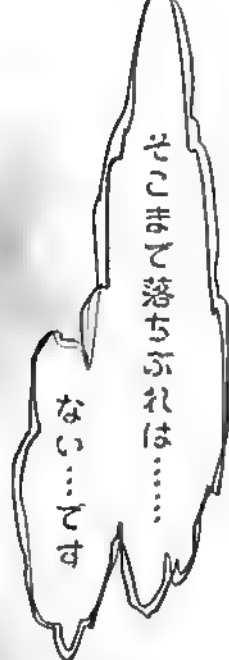
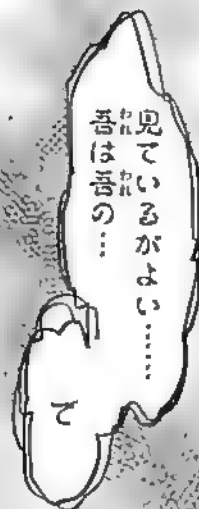
こっこの…っ
貸しは……
……高く…
つくからな…!?

…ああ
妾の死に涙を流してくれたのは 今も昔も
―そなただけ……
これでようやく死んだ妾も浮かばれよう
茶化してんじゃねえよ馬鹿野郎…

第四十四節❖怨の胎動

ザザ
ザザ
ザザ
ザザ
ザァ…
……!
少しは落ち着いたかの?

……うるせえよ
ってかお前…
本当に
蛇なんだ
ろうな？
蛇のフリした
紅なんてオチじゃ
ねえだろうな
ふむ
不安ならもう一度
揉んで確かめれば
よかろ
分かった
やめろ!!
分かったから!!
く 蛇が神に
戻ったんなら
あいつ
紅は
どこへ――
……ゆ…え
何故……

……何故……
枝から……
呪われた民に加担…す……
声が――…？
？誰が…なんだって？
負け犬は大人しく枝に引き籠もっておれ
……赤縄は……
本来ならば吾と共に……
だが――ひとときの肉体を生かして貰ったことには感謝しておる
おかげで貴重な体験もできたしの
枝一本はさぞ窮屈だろうが このまま生かしておいてやっても――
ギリッ…

!?
うわっ…
あっち！あちちち
吾は神……

そこまで落ちぶれは……
ない……です
吾は吾の…
見ているがよい……
で
……して…や…
……
クビツリ！
大事ないか!?
お…俺は
大丈夫…だ
ただ縄が…今まで
どうやっても
外せなかった縄が
焼けて
無くなった
……だけだ…
……縄…っ？
……
あいつ
自ら
死んじまった
……のか？

……
紅の奴も
人に歪められた
哀れな神だったが
しかし呪われた民……
妾に『生かされる』ほど
落ちぶれてはおらぬ
…そういう
ことであろうな
それとも以前とはもう　全く別の――……
……蛇
お前…は
その……
長年にわたる
未練を捨てた
今のお前は
元の蛇なのか？
んっ？
ふっ
んなっ

貴様 今 笑ったな!?
何がおかしい! 言ってみろ!!
いや なんでもな……
あぶねっ!!
その手刀やめろや 切れ味 洒落に なんねーんだよ!!
うるさいッ 妾を馬鹿に したであろ!?
してねーよ
……大丈夫だ
少なくとも 俺の知らない 蛇じゃねえ
良かった——……
……俺が 殺さなきゃ ——

――お前は消えることになる――

ならおあいこだ
お前を殺したのが
俺なら
俺を殺して
良いのも
蛇(くちなわ)
お前
だけだ
それまで他の誰にも
殺されやしねえ
だから……
俺が消える時には
きちんとお前が
手を下してくれよ
クビ…
……唯一……
叶(かなう)のことだけが
心配なんだけどな……
ただ――

それは貴様がケリをつけよ
元より己が人ならざることを承知で手を出したのだ
それ相応のリスクは覚悟しておろ
ええおい？
やめろやめろ人聞きの悪い言い方すんな
しかしそなたも隅に置けぬの？
そうやって心に決めたおなごが居るにもかかわらず
先ほどの妾に対する言葉はまるで
随分と過激な〝ぷろぽおず〟ではないか？
俺を殺して良いのもお前だけだ

違ッ
さっきのはそういうやましいアレじゃなく
てか裸でくっつくんじゃねえ！
無防備にも程があるだろが
ほれほれ
ほお～そなたでも胸が直接当たれば緊張するのか
おっ…隠せバカ
するわけねえだろ
そんなあるかないかも分かんねえ胸──
なん
がしっ
かっ…？
貴様のような助平はこうだッ
ア

うるせぇよ
その話まだひっぱる気ならもうてめーとは口利かねぇ
……ふんまあよい
では先ほどの話へ戻る前におさらいだが

ではそなたの場合
死体に戻るのか　はたまた
自殺がなかったことになるか――
……構わねえよ
どのみち動く死人の
俺がまともだなんて
思っちゃいねえ――
しかし
消えるべき存在は・・・・・
そなただけではない
……いずれにせよ
今居るそなたは
消える運命なのだ
これぱかりは妾とて……
どうしてやることもできぬ
……なんだって？
そなた同様――
『本来あっては
ならぬ者』が
もう一人

身近に居(お)るであろ？
死産……
子供……
〝ママを助けて貰った恩もあるし〟
……名無か
そう
安登まつりに宿った「名無」という不可思議な人格だ
名無が…消える…？

あれは本来死産となって消える運命にあった赤子の魂が
皮肉にも怨結びの代償で空の器となっていた——
母親のまつりへ入り込んでしまったもの
……と妾は考えている
しかし怨結びがなかったことになれば安登まつりの魂が消えることもなく
あるいは千石 揺と契りを結ぶこともなかったやもしれぬ

俺がいつか消えるのは…
薄々予想してたことだ
自ら選んだ
死なわけだし
けど名無は──
……色々あったが
あいつとの付き合いは
良くも悪くも深い……
俺らだけで あいつの
『最期』を勝手に決める
ことはできねえ
ではどうする
つもりだ？
考えてみりゃ
俺はあいつのことを
なんにも知らねえんだ
だから全てを
話した上で
…できる限り
あいつの望みを
叶えてやりたい…
──ってのは
…矛盾してるか？
……まあな
どう転んでも犠牲者を
元に戻すと決めた以上
結果は同じなのだから
とはいえ
あやつをもっと知るべき
という点においては
同意だの
好きにせよ

そりゃどうも

じゃ早速本人に聞いてみっ――

おおそうだ！忘れておったが

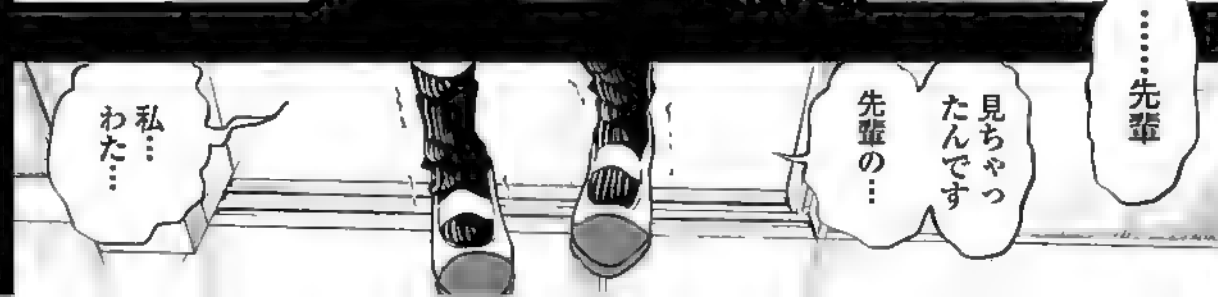
クビツリ そなた以前倒れたことがあったろう

あれから何か異常は――…

クビツリ!?

実を言うと
…………ついさっきまでずっと
頭ん中に呪い人の奴らの声が
鳴り響いて参ってたんだよ……
角田梨世ほど
やべー奴はねえからなんとか
……平静は保ててたけどな
呪い人ではないのです☆
……紅にも
隠し通したんだぜ？
お前が神に
戻った途端
急に収まったんで…
……気が…
緩んじまった
だけだ
ちょっと休めば
動ける…
はずだ…
……
……
阿呆め
…無茶を
するでない
まるで学習
しない奴だ……
……しかし…
胸騒ぎがする……

赤縄を使い命を絶ったが故に自身が供物となり
妾を目覚めさせた男——
……だと思っていたが
赤縄はあくまで『力を持った道具』に過ぎず『蛇』などという神は存在しない
クビツリと妾の感覚が共有されつつある……？
クビツリ……そなたの死と引き換えに
妾は怨結びの犠牲者を取り戻さんとするそなたの願いを叶えよう
しかし——
もしや妾とそなたの関係は神と仲介人などではなく
本当は何かもっと別の——……

…
…
ガラ…
──やあ
どうしたの？『その顔』……全然似合ってないよ
昨日までは普通だったじゃない
……何か辛いことでもあったの？
……先輩
見ちゃったんです先輩の…
私…わた…

——そう…残念

君は純朴なところが可愛かったのに

また探し直しか

えー
ねずきち
声楽部なんだ！
意外ー
普段声
ちっちゃいから
全然想像つかないわ
ねずきち
じゃなくて
そう？
可愛い
じゃーん
てか顔も体も
ちっちゃくて
小動物っぽいしー
！
根津見(ねずみ)……
…ハムの名前
みたいで
なんかやだ
…メイ

2年はおんなじクラスなんだ！中学ぶりじゃん
！
…智…？
また一年間宜しく〜
え…うん
あー……
ん…じゃね
始業式もHRも終わってから登校って…
あーいつも生活指導に目えつけられてるトモビキ？さんね
服装の抜き打ち検査でクラス全員とばっちり食らうってまじ？
おーす
ギリまにあったぜー
まにあってねーよ
あのグループだけはほんと近寄りがたいわ…
ってかねずきち知り合い？
ぴくっ
さ…大比木さんとは中学からとっ…
…一緒だから

でも去年の
夏まではフツー
だったんだよ
中身はそんなに
悪い子じゃ
ない…し……

……ふーん
あ

これ以上
ひっぱらない方が
いいやつだ これ…
ねっ
それよりさあ

声楽部なら3年に
神永このみって
先輩いない？
え
……うん
居るけど
ほっ
やっぱり！

有名なんだよー
めっちゃ
美人じゃない!?
ブーッ
ブーッ

物腰も静かだけど
サバサバしてて
なんかこう…イケメン!?
え まじ？
超見たい！
今度紹介してよ
神永『今日は部活後少し
"特訓"しようか』

あっ…

しかも勉強もスポーツもできるのに決して傲らず目立ちたがらないっていう
……うん そうなの
先輩なら どこの部でもエースになれちゃう
あーっ男だったらめっちゃモテそう!
ばかだな〜 そんな都合のいい男いるわけないよ
だけどさ 噂じゃあの人……
百合ってウワサあるよね
ッ
ッ

そっ……まっ
いまどき珍しくもないんじゃないかな
特にウチみたいな女子校だと
表に出ないだけで
まあ女同士なら減るもんでもないしねー？
せいぜい友達の延長みたいなもんだろーし
それに比べて男なんてさあ
ほら
まーた栄野高の男子が校門前うろついてるよ
……入学するまでこんな近くに共学校あるなんて知らなかった
共学つっても男女比9対1の工業高校でさほぼ男子校よ
うちの学校からも一部のやつらがつるんでんでしょ
怖い噂だってあんのにねー
えっなになに噂って
あ……

智……
……そっか
今の智なら
別段驚きも
しないけどさ
……痛い目
見なきゃ
いいけど
まあ
私も
みんなには
言えないこと
してるし……？
――って話が
あったんですよ

噂になるほど色んな子に手出ししてたんですか？

そうだね

私 女の子大好きだから

前は色んな子と仲良くしてた時期もあったかな

大丈夫だよ
こねずみちゃんが『誰にも』言わない限りは……ね
……こういうことするのも今は君だけ……
……っ
声楽は声量が命なんだろう？
今日はどんな『特訓』しようか
するっ…
小さな君から発せられる あのとびきり綺麗な声……
あ…
また聞きたいなあ

あ

……桜?

こんな校内でいったい……どこから——

……が……

あれ……バ……
怨結びを……

……が……アれ……ば……

可愛いなあ～

みんなほんと……可愛い

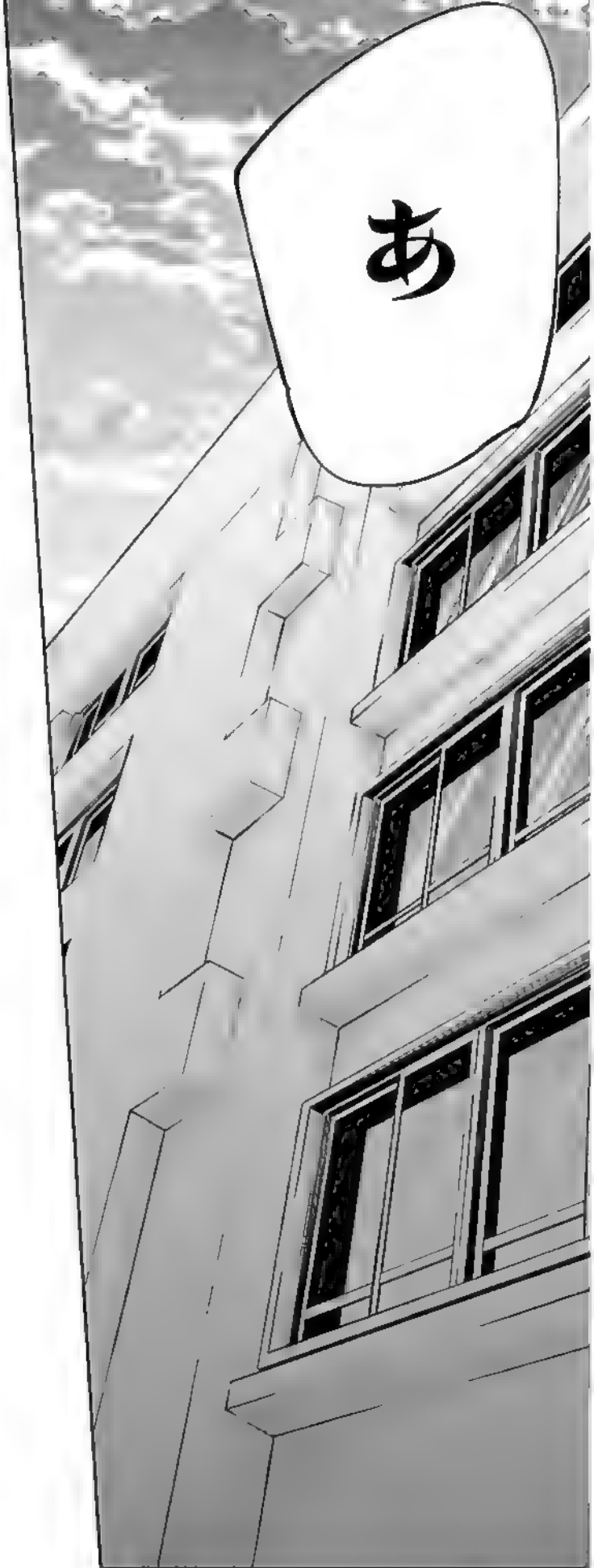
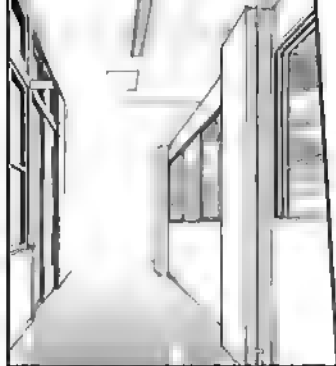
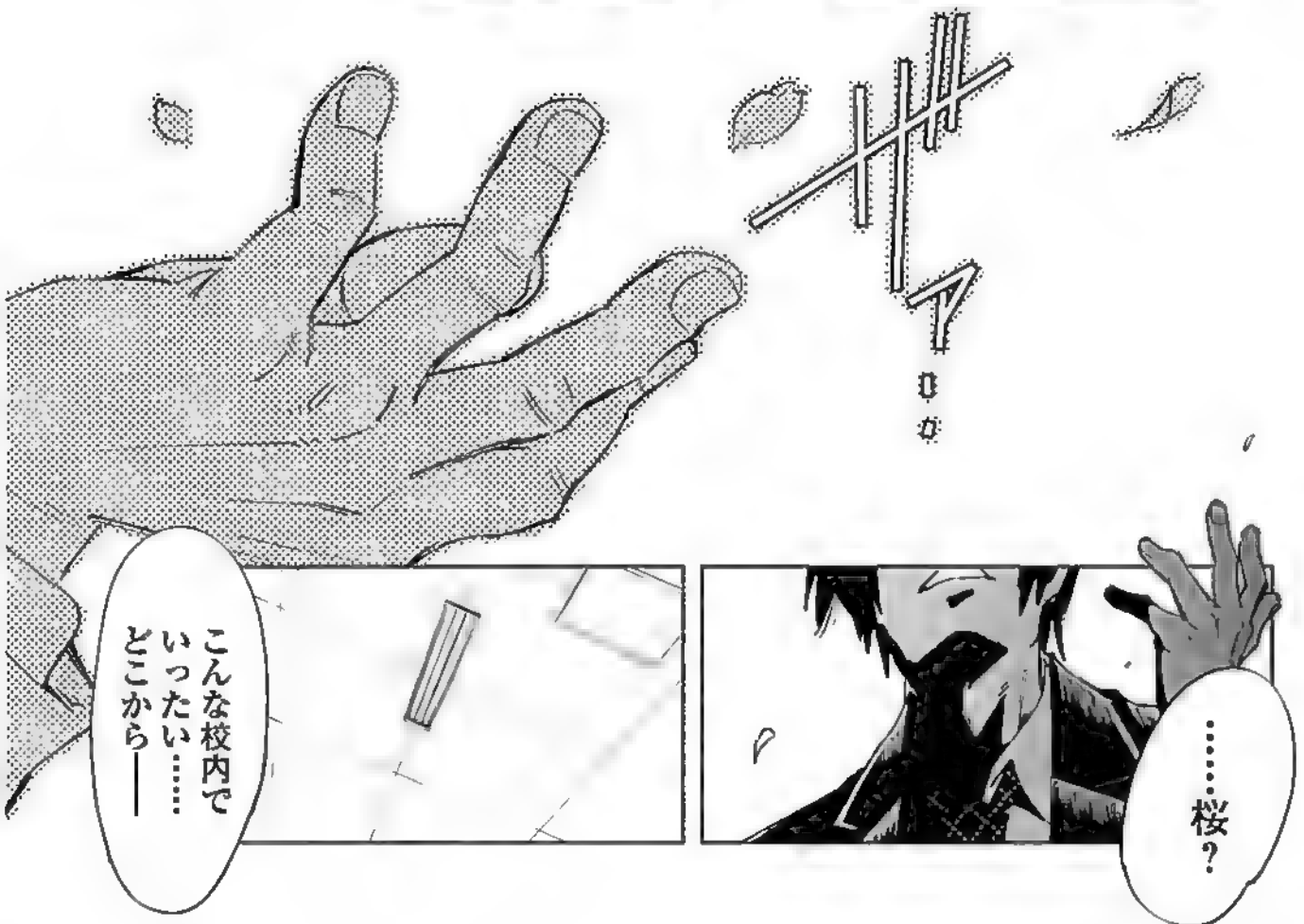
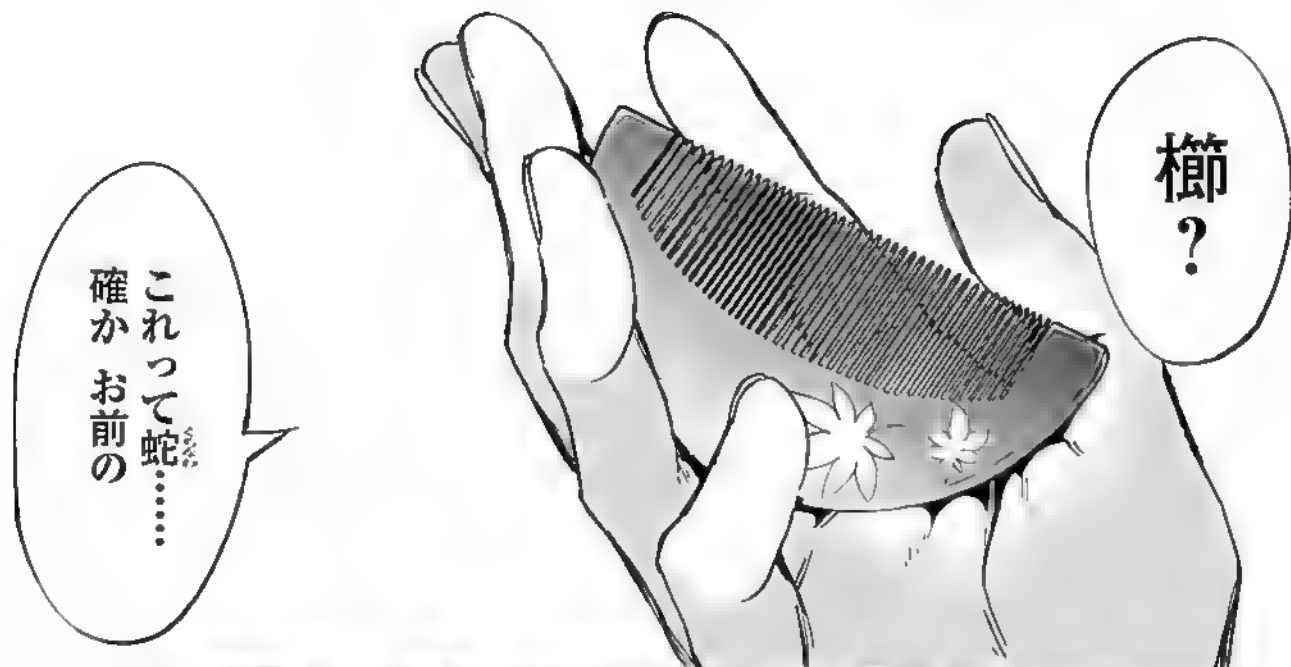
櫛？

これって蛇……
確か お前の

そうだ

気になる？

別段 深い意味は
無いが

……ただ少し
気になっての

第四十五節 ❖ 伏怨

そうだ
第四十五節❖伏怨
あの縄はのクビツリ
そなたが首を吊った赤縄……
この御神木や妾の纏う『まやかしの縄』とは違う——

……唯一
『実物』として
遺された
『現世のご神体』
だったのでは
ないか……と
妾は思うのだ
……目に見える
繋がりがないのが
心配…ってことか？
……いやまあ
もし本当にお前との
繋がりがねえなら俺は
とっくに死んでんだろうけど
……分かっている
──それが
焼けたという
ことは……
妾の杞憂であれば
それでよいのだ
だから
その櫛は単なる
その……
御守り代わりの
ようなものだ
『御守り』……
…ねえ
蛇は

『人としての
妾が愛した──』
『そなた
だけ……』
以前にも増して
格段に人間らしく
なりつつある
アホか
俺が意識して
どうする！
『人になりたい』未練を
捨てた今も尚それは
変わらないらしい
あの蛇が
『御守り』なんて
言葉を口にする
とはな……
心を取り戻す
ってことは
蛇を縛る
あの封印が

残された呪いが
確実に減っている証拠
なんだろうが……
……心がある
ってのは……
それはそれで
やりづれえよな……
……ましてや
呪いを振りまく立場
じゃ なおさら――
ザッ…
蛇
今度あっち
行った時
土産買って
きてやるよ
何が
いい？
天杉堂（あますぎどう）の
ふるーつ
さんど!!

――根津見…メイ？ちゃんってさ
確か北小だったよね？
…
…
…
ガタ
ガタ
……うん
やっぱり!?
よかった〜!! このクラス南小出身ばっかかで心細くてさあ〜
同じ小学校同士仲良くしよ！ね！
……いいけど
あなたは…えっと

ともびき 大比木って書いて ともびき
でもなんか 呼びにくいっしょ?
智でいーよ

初めはちょっと 強引な子かな って思ったけど

でも気付けば 二人一緒に居るのが 自然になってて……

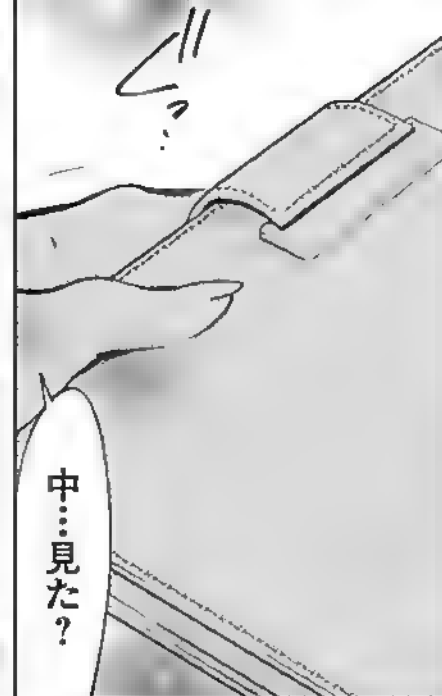
同じ高校にも 受かって

クラスは別れ ちゃったけど でも そんなの関係なく

これからもきっと 友達だって思ってた のに――……

ごめん　メイとはしばらく　距離置きたい

19:06

チキ・・
ガラ
――驚いた
あ 神永先輩？ ……早いんですね
それはこっちの台詞だよ
昨日ここに忘れ物したんで朝イチで取りに来てみれば……
こねずみちゃん
……もしかして前からずっと一人で朝練してたの？
はい 時々……
このタブレット…？ですよね
先輩の忘れ物って

中…見た?

!?

みっ見てませんよ!

ロックだってかかってたしっ

へえ? つまり見ようとはしたんだ

あっ だ 誰のか手がかりが分かるかと思って…!!

ふふっ…

くくくあ〜〜〜 君はいちいち可愛いなあ!

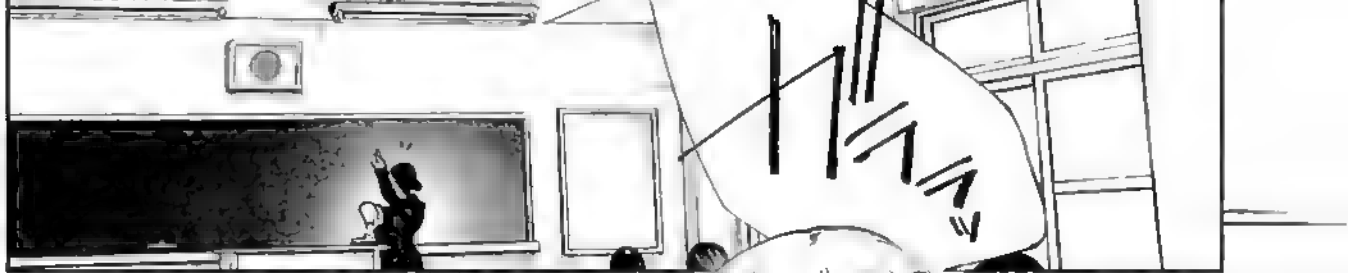
どうしてこう仕草ひとつひとつが愛くるしいんだ!

冗談だよ冗談! そんなに怯えなくても〜

ぎゅ

せ せんぱ…… 時々キャラ崩壊しますよね!?

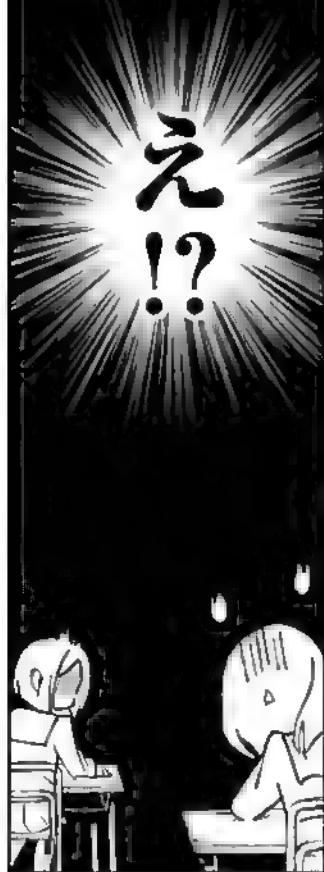
……ところで君より後に声楽部入った私が言うのもなんだけど
どうして君はそんなに活動熱心なの？
部活は週3の放課後だけの筈だけど
……昔友達に褒めて貰ったんです
わたしの唯一自信を持てる特技……だから

ガラッ
スイマセーン なんかぁ
君たちは…… ああ例の子ですね
早く着席なさい
昼休み センセに呼ばれて 遅くなりましたー
ふぁあーい……
大比木さん どしたのっ
なんか呼び出し くらったらしーよ
他校の男子と 不純異性交遊は 控えろとかどうのとか
あ〜誰か チクったんだ あれ
ざわ
ざわ
怒られて いい気味よ
これで少しは 懲りるんじゃない？
ねー？ ねずきち
え…… もしかして先生に 言ったのって

だって聖女の生徒はチョロいーみたいな風評がたったら
こっちまで迷惑じゃない
ましてや同じクラスだしさ
それはそうだけど…
嫌がらせみたいに言いつけるのは…なんか違うような
……
智も智だ
どうしてクラスの中で浮いてまで
校則破ったり他校の男子と遊びたがるの
……えーご存じのように我が校は春に独自の伝統行事
新入生をクラスに招いて合同レクリエーションが行われます
まだ入学間もない一年生を温かく迎えてあげましょう！
ぐー
ぐー…
だからいい加減誰か……

そこ——!!
HR中に不マジメでしょう!?
大比木(ともびき)さんッッッ!!
ふぁッ!?
あ?

……んじゃ あたし やろっかな

じっこーいいんちょ

え!?

クラス全員ギャルっぽく可愛くしてぇ

もちスカート二折りくらいは最低限っしょ

え…え?

でぇ〜…なにやろ

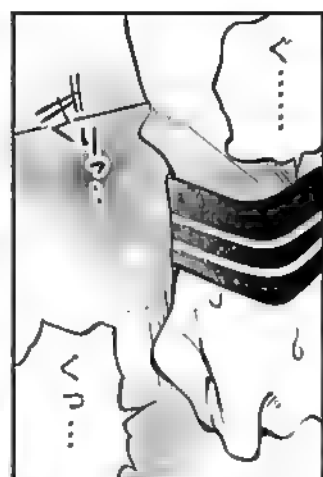
さっ…智!?

どょ

どょ

あっ メイク講座とか!?

待ってよ冗談じゃないわ！
あんたらみたいな格好私らにもしろっての⁉新入生の前でっ
結局さ
だって他に立候補いないいんでしょー？
誰もまとめたくないいんでしょ？
すっごい気持ち分かるよー
メンドイしタルいしこの行事自体意味分かんないし
できれば誰か勝手にやっといてー的な？
だから
このままほっとけばあたしが委員長権限で勝手に仕切るだけよ
意見したければ委員会メンバーに立候補してくださーい

ちなみに
この企画
ネタじゃなくて超マジなんで♪
ぐ……
ギリッ…
くっ…
…分かったわよっ
私も委員になるっなるから!
そんな企画絶対通させないし!!
ハーイ
他にはぁ〜?
ギャルさんせーなら黙ったままでいーけどー?
あ…わ 私もッ
……え
すごい
すごい
っぎ…
ギャルなんて
おず…
おず…
イヤすぎる……

すごい

やっぱり智は…すごい

この数日でクラスの中心になっちゃった
……
外見は変わっても
……
……
中身はあの頃とぜんぜん変わってない……
──でも
私とはもう……
メイ

悪いけど こっち手伝って くんない？
昔からこーいう 繊細な作業 得意 だったっしょ！
……！
う うん！

先生に呼び出されてたのすっかり忘れてたよ
今日は用事終わったらそのまま上がるから悪いけど施錠だけお願い
パタン
……相談はまた後日
……ゆっくり聞いてあげる
あ
ふぁっ…はい!おつかれさまでしたっ
活動報告は顧問の先生にしておくからー
……今更だけどなんでこんな部にあの神永先輩が来てくれたんだろ
知んないけどー先輩来なかったら私とっくにやめてたかも
先輩と話しただけで皆に自慢できるし~♡
分かる~

あの子たちは駄目だなあ……

損得で付き合う人間を選ぶタイプは一番嫌い

やっぱり可愛い後輩はこねずみちゃんぐらい純真無垢でないと…ね

……新しいクラスか……

変な虫が付いてなきゃいいんだけど

ごっめ〜ん

本当にメイク講座なんてされたら困るからよ！

皆必死に考えたっての

……でも正直

……あなたが学校行事をこんな真剣に取り組むなんて思いもしなかった

大比木さんて意外とまじめなのね

……へへっ まー普段寝てんのはあれ

パワー貯めてる的な？

それとこれとは話が別よ

……じゃあ私電車だから

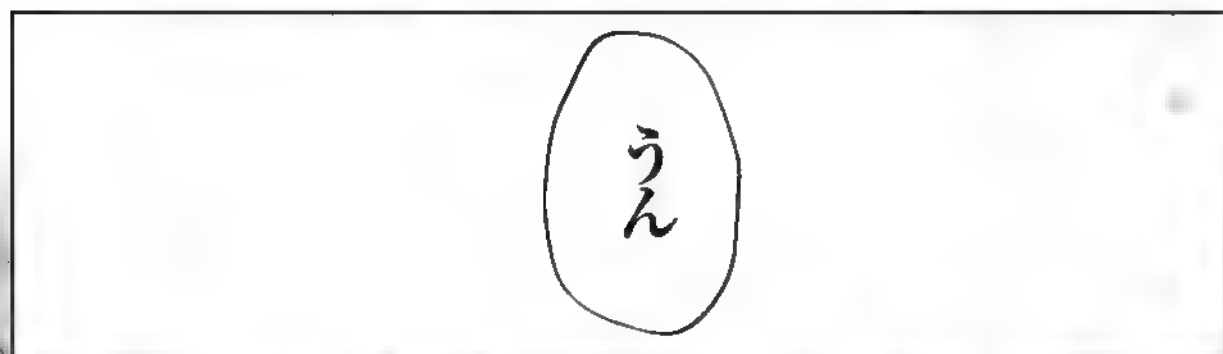
ねずきちもまたね

……ん

こんなに長く
一緒に居るの
久しぶりだねー
……中学ぶり
くらい？
…智からいきなり
しばらく距離を置きたい
って一方的に
縁切られて
翌日には智が
大変身してきて……
……そう だね
高1ではクラス
別れちゃって……
それで
……去年の夏
何があったんだろって
いっぱい考えたけど……
多分もう
心配ないいん
だね
っ……
ご

……ごめん!!!
あの時は…どうしても言えない事情があって
とにかくあんたを巻き込みたくなかったから…
だから
……ううん 私のことはいいんだ
それよりも私… みんなが智を誤解してるのを
ただ見てるしかできないのが …悔しくて
なのに結局 智は自分でなんとかしちゃうんだもん
やっぱ智はすごいよ
……メイ
ねえ智

私
もう
智と距離
置かなくても
いいのかなあ
ごめん…ごめんね
何も言わず
一方的に離れたりして
突然こんなになって
驚いたよね……
でもあたし
あたしさあ……
しっ信じて貰えない
かもしんないけど

……ホントはメイと
ずっと一緒に
いたかったんだ
すごく勝手
言ってるって
分かってるけどさ
もし許して
くれるなら
また……
あそぼーよ
うん
…………

――落ち着いた？

あ〜……
泣きすぎて
はなみずでた
はい
ティッシュ
さんきゅー
ちーん

……なんか
智もそうだけど
私の周りってすごい人
ばっかだなあ……

え
どこが？
はやく
鼻拭こ？

な…なに〜？
いきなりそんなさあ…
お小遣いかぁ〜？
しょうがない
なあああ〜
照れ隠しで
キャラ崩壊
してる……

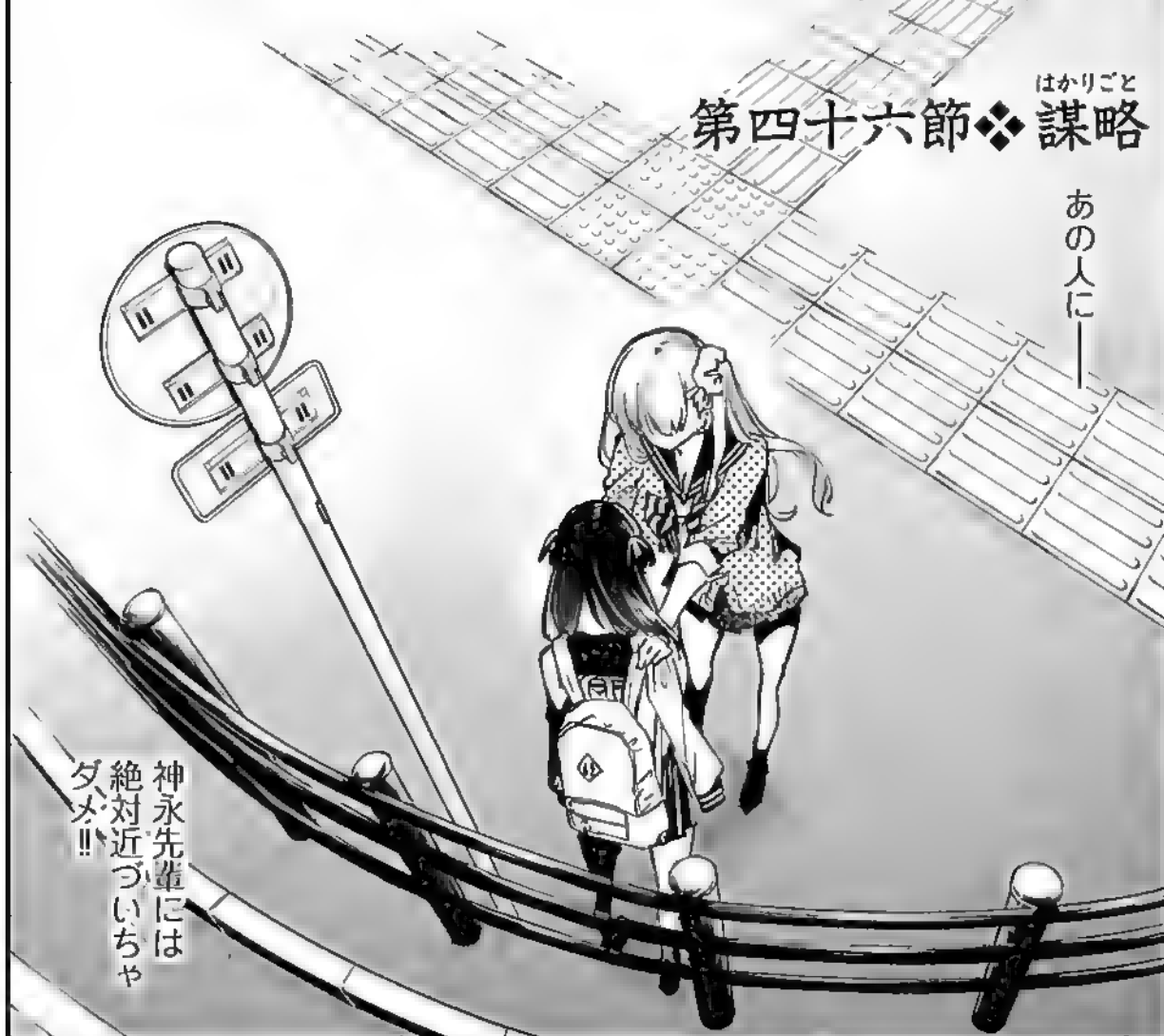
声楽部の
先輩もね
あ
先輩って言っても
半年前に入部してきた
人なんだけど
すごいんだよ
才色兼備って
ああいう人を言うん
だろうな〜って
ビクッ
カッコイイし
優しいし……
……先輩？
そう
三年の有名な
先輩って言えば智にも
分かっちゃうかも
神永先輩
っていっ…
ダメ!!!

ダメ……
なんで……あの人が
……どうしてメイを
さっ…さと…る？
ダ・・・メ・・・だよ・・・
メイ!!
あの人に…
神永先輩には絶対近づいちゃダメ!!

ザザ…
ふんふんふん～♪
楽しみだのぉ♡
ザザ…
現世の『からおけ』とやらでつまんだ菓子も大層旨かったが……
しかし天杉堂はやはり特別だからの♡
クビツリのやつが間違えぬよう定期的に声かけしてやっ…
ふわ
!!

……?
トッ
……気のせいか…?
体がやけに軽くなったような……
?

第四十六節❖謀略（はかりごと）

あの人に――

神永先輩には絶対近づいちゃダメ!!

ちょっとおメイ!!
話聞いてってば!
なに?怒ってんのー!?
当然でしょ!?
いきなり好きな先輩のこと悪く言われたらっ
せ せ先輩として尊敬してるって意味で!!
あっ
!?
やっぱり手え出されてるんじゃん!
と…とにかくっそんなの怒るに決まってるじゃん!
だけどあの人はホントにヤバイんだって!
このままじゃあんたがっ…

そこまで
言うなら答えて
関係 なんで智が先輩を知ってるの？
理由 どうして先輩を悪く言うの？
詳細 私が一体どうなるっていうの？
『全部』答えてくれるならまじめに聞くよ
そうでないならデタラメってことで取り合わない
関係……は…
……言いたく
……ない
…ならデタラメってことでいいんだね
ただの陰口なら私もう帰る
でも！
理由は……ある！

『二年前の事件』の噂……知らない？
栄野高が関わってるとかいう……
私は……その事件も先輩が仕組んだんじゃないか　って……
思ってる……
二年前の――
…事件……？
あーうん知ってるよ
エノの噂でしょ？
噂って……悪い噂なの？
ざわ
2列に並んでねー
はーい
ざわ
んー　まあ……

――あってでも栄野高っていってもOB…っていうの？

怖い話は全部卒業生の噂であって 今の子たちは関係ないんだって

実際大比木さんの友達も普通だったし

会ったことあるの!?

うん

ほら準備最終日に私大比木さんと買い出し行ったでしょ？

その時 偶然 彼らと会って

軽くやりとりしただけだけど……

はじめましてー

女子校ってどんなすか？

こっちむさ苦しいばっかなんすよー

むしろ気弱そうで拍子抜け？

あっちも ほぼ男子校なせいで ぜんぜん女子に耐性ないんだって

笑っちゃうよね

うちらも栄野校のこと知らないから色々言ってたけどさー…

境遇は似たようなもんなのかも

あー

そーかもねー

すっ……ごい
あんなに栄野高(エノコー)嫌ってたみんなの意識が
智一人介しただけでこんなにも変わるものなの？
やっぱり智はすご……
あの人はホントにヤバイんだって！
……くない
結局 智だって噂に踊らされて先輩を悪く言ってるわけだし
うん 全然すごくないしー
噂ってのはねー
あんま気分いい話じゃないんだけど
……うちの学校二年前を皮切りに
少し前まで突然転校したり休学したりで居なくなる子が割と居たらしくてさ
でもそれは性質上表沙汰にできないだけで本当は

栄野高のその……
悪い奴らに
乱暴されてた……みたいな

くだんない噂よ

栄野高の人がうちの生徒を……？

……え
もしかして

智はそれが先輩の仕業だ とでもいうつもり……？

遊びに来ちゃった♡

せんぱ…!?

いやー ここんとこ ご無沙汰だったから

こねずみちゃん成分補給したくなっちゃって～

せ

せ

成分って!?

えっえっ ねずきち 先輩とそんな仲良いの?

なんで……あんたがここにいんのよ!

……へぇ
驚いた

こねずみちゃんと
同じクラス
だったんだ
君も

3年生は
部外者でしょ

これは
1・2年の
行事よ

用がないなら
帰って！

用って……

愛する人に
会いに来た
他に何か
理由が要る？

えっ

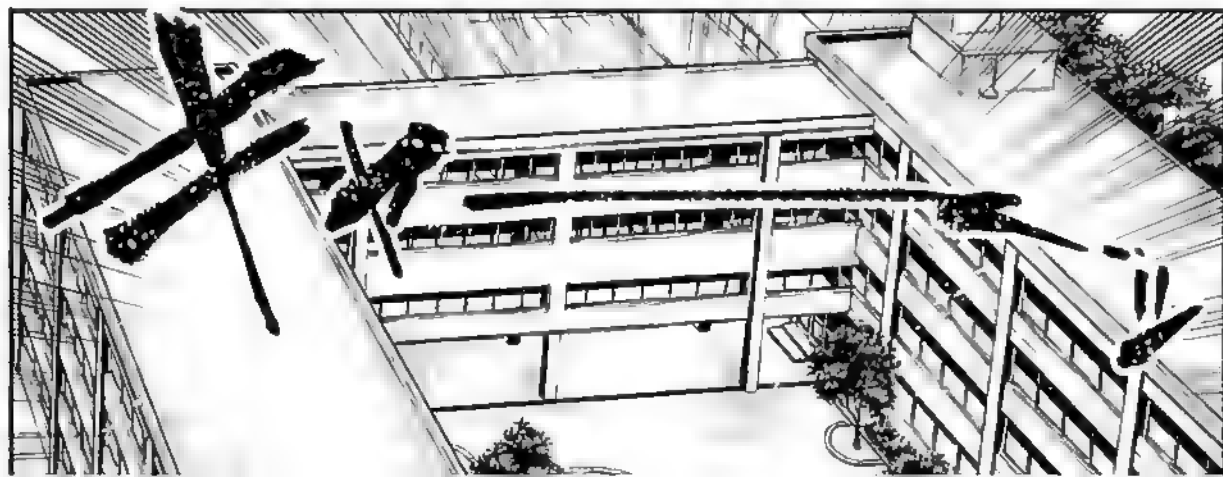
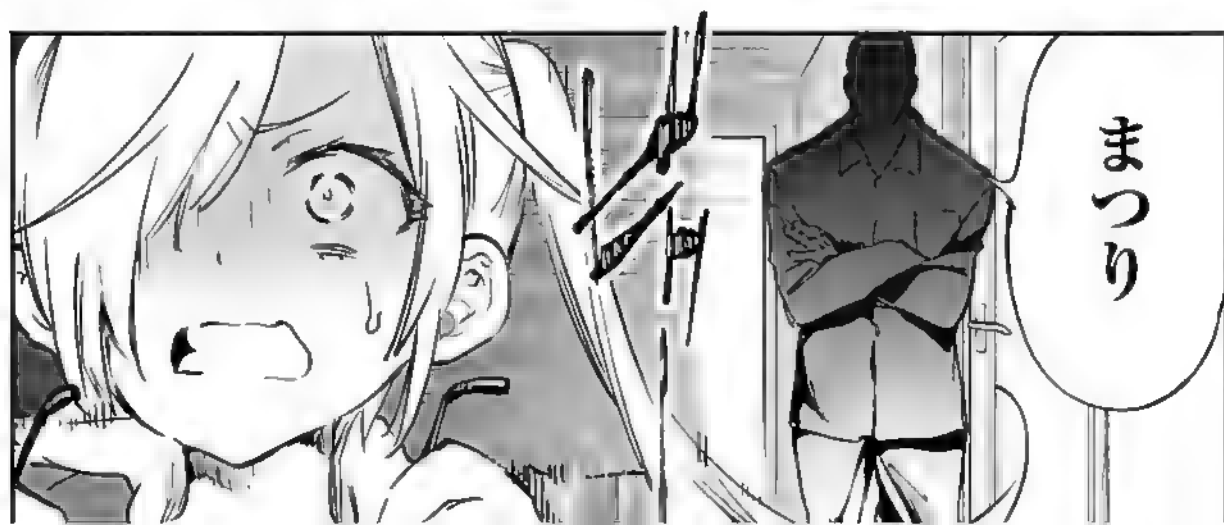
……ねぇ？

こねずみ
ちゃん――

え
ちょ
せんぱ…

……

つき……

くかー……
安登
……
いっか
誰も見てないし……
まつり

出掛けるときは
場所と帰宅時間
約束した
だろう

ぁ
安登パ——
……お父さん
起きてたんだ……
えっと…
今日はぁ
そのー……

知っている
例の『彼』と
会うんだろう

あ〜…うん
やっぱ
チェック済み
なんだ
彼の端末は一通り
監視してるからね

しかし
それとこれとは
話が別だ
決まりが守れないなら
外出は許可できないよ
それと

『眼鏡は必ずかけなさい』
知ってると思うが彼と会う際の会話は全て記録させてもらうよ
まつり・・・
……分かってるよ
……この
家の中に
『お父さん』

『僕』の居場所は
どこにもない――…

・・名無！

悪いな わざわざ
来てもらって――

うおお!?

……

……なに？

あれ
今日はクソダサ縄
着けてないじゃん

もしかして
イメチェン
披露したくて
呼んだの？

ちげーよ

今日来て貰ったのは
他でもねえ
一つは
報告

俺と蛇が神社へ
戻ってからの
顛末だ

……それと

現状 俺たちの知り得る情報……可能性の全てをお前に話す

その代わり…ってわけじゃねえが

『お前のこと』を聞かせて欲しい――

ふーん……

じゃあ結局 蛇は神さまに戻って

アイツに成り代わってた紅の正体は御神木で燃え尽きてそれっきり……

……ん～

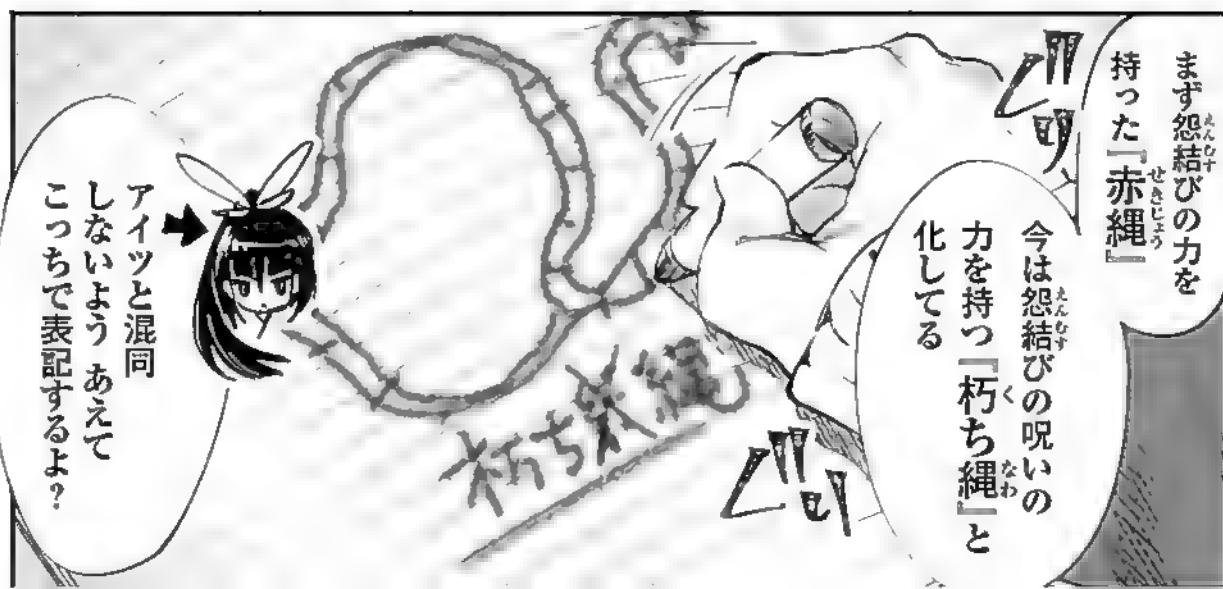
なあんかひっかかるんだよな～

ややこしいから絵にしていい？

おう

ごそ ごそ

よっ

名無の絵か……

んで『御神木の神様』
お ちょっと上手くなってる
縄を操るにはこいつの力が必要
そこに割り込んで来るのが犠牲になった『巫女』だ
ご神木
あやつる
のっとる
みこ
御神木の神を乗っ取ったこの巫女が僕らの知る蛇……アイツだろ？
そして蛇の体は普段見えないけど
封印……無数の『朽ち縄』で縛られてて——
ふういん？
みこ
ナワ使うと
きえる？
呪いを使うことにその『朽ち縄』が減って
アイツの心と『赤縄』の力を取り戻すらしい……と
極めつけに『朽ち縄』は道具であって
『蛇』なんて神は存在しないとまで言われたんだろ？
わかりやすいな
……まあ
だったら尚更おかしいでしょ
そもそも自称『朽ち縄』のアイツ自身が
なんで朽ち縄に縛られてるワケ？
……！

…おいおい
待てよ…っ
ガタッ
蛇が蛇じゃない
ってことはじゃあ

これからあいつを
なんて呼べば
いいんだ……!?
どうでも
いいし好きに
したら

なんか落ちたよ
櫛？
あっ
あぶねっ

蛇から
渡されて
たんだ
やべー
やべー…
なんか大事そうに
してたし 扱いには
気をつけねえと……
アイツの？
その櫛が？

……櫛…
…そうか！

だとしたら
すごいよ！
偶然にしても
よくできてる
じゃん！
へえ〜！
おもしろーい
話
見えないいん
だけど
置き去りに
すんな

以前僕が話した八岐大蛇伝説の話覚えてない？
ああ
あの日本神話みたいな……
幾人もの娘を食べた末
奇稲田姫の番で
素戔嗚尊に殺された
赤い瞳に八頭八尾の人食い蛇――……
あの時は八岐大蛇になぞらえて蛇が実は悪い神なんじゃないかって話をしたんだけど
その大蛇を倒す際素戔嗚尊はね
奇稲田姫を『櫛』に変えて
自分の髪にさして退治に向かったんだ

…なんで櫛に変えたんだ？
くしだがり
クシナダヒメ？
さあ
呪術的意味（？）婚姻の暗喩（？）諸説あるけど
櫛……ねえ
まあちょっとこじつけっぽくもあるが
こうも次々符合点が増えてくると流石に薄気味悪いな
つまりさ
アイツは大蛇じゃなくって食べられる側の奇稲田姫的役割だったんじゃない？
姫
……だとすれば
アイツを狙う八岐大蛇は今も尚
どこかで機会を伺っているのかも……
蛇を縛る朽ちた縄…
怨結びの呪い

かつて あの神社で
村人たちによって作られた
怨結びという
忌まわしい大蛇
もしそんな化物が
潜んでいるとしたら――……
あ あの
神永先輩……

こんな……

オープンにしてしまって……

もしかして…何か迷惑かけてる⁉

ごめん！

ただ

友達にいろいろ聞かれてちょっと面倒ってぐらいで

でもかなり恥ずかしいっていうか……

そうだよね……普通に考えれば分かることなのに

ずーーん…

そのせいでこねずみちゃんが変な目で見られるようなことがあったら私は……

そっそんな迷惑だなんて

なーんだ良かった！

もう公認カップルなんだし恥ずかしがることないじゃない

皆の前でチューまでしたのに今更

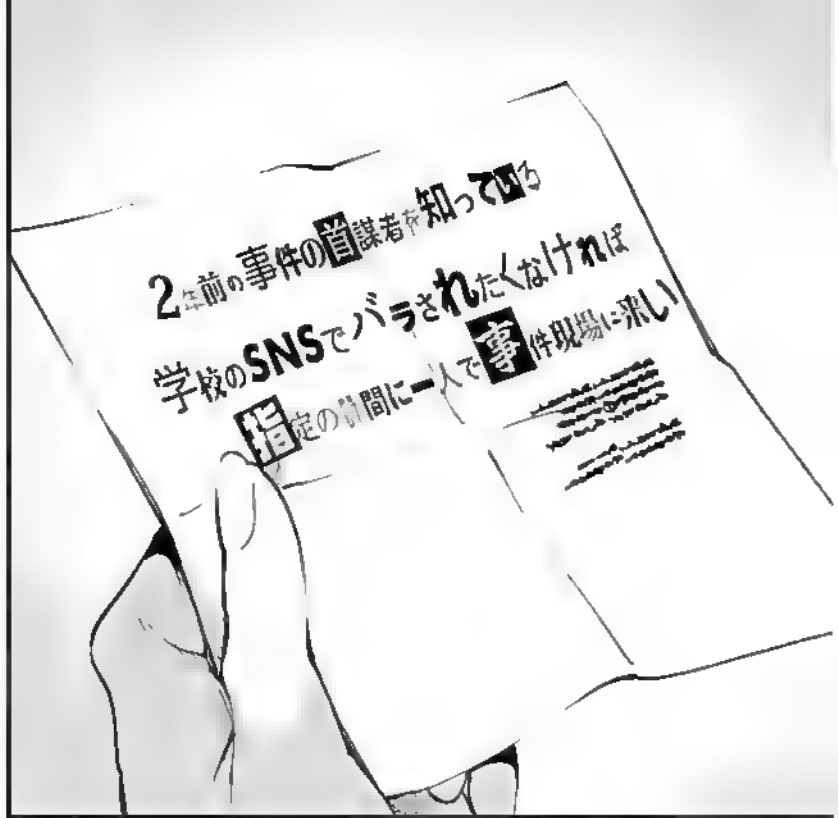
ええええ……

！

メイーー？

あのさー放課後
栄野高の子たちと
遊ぶんだけど
良かったら
メイも……
さ
さとる……
…ごめん
邪魔したね
あ……
……せっかく智と
友達に戻れた
のに──
なんか全然
話せて
ない……

やられた――
あの人は――
神永先輩は
あえてメイとの関係を
オープンにすることで
妨害させにくくしたんだ……!!
人望の厚い彼女に
否定的な生徒なんて
ほぼ居ない……
周りを味方に
つけることで
私はおいそれと
メイを連れ出せ
なくなった
ましてや
異性と遊ぶ
なんて――
無垢な
笑顔を
装って
全ては彼女の
計算の上…!!
メイ……

……こんな狭い
籠の中だけに居たら
麻痺しちゃうよ
目を覚まさせるためにも
メイはもっと広い世界を
知るべきなのに
神永先輩も
来年で卒業…
……
もしかして在学中は
メイを『最後の獲物』にする
つもりなの……？
ちゅっ
んっ
……
……先輩……
ぴちゃ
ちゅる
あ
…せんっ
ぱ……
ちゅ
ぱ

……すごい汗
冷たい飲み物とってこようか

ごめん…なさ…
いいのいいの ゆっくり 余韻に浸ってて
……

…？
光ってる
先輩のタブレット……

先輩の秘密とか 映ってたりして…
なーんて……

――なに

こ・れ・……

………
……なにビビってんの
もうあの頃のあたしとは違うでしょ
相手は1コ年上ってだけで 実体はただの女の子だ
一対一で話すだけなら何も怖いことなんてない
一人で来ざるを得ないように誘い出せばいい…
──そうだよ
メイから手を引くよう説得するくらいなら──
私にだって!!

2年前の事件の首謀者を知っている
学校のSNSでバラされたくなければ
指定の時間に一人で事件現場に来い

──やっぱ君か

こんな脅迫まがいの手で呼び出したりしてどういうつもり？
っていうか
この書き方じゃまるで私が事件を仕組んだみたいじゃないか

違うの？

メイも同じ目にあわせる魂胆のくせに

あれは作り物なんかじゃない……

うちの制服の子だって映ってた

それも一人や二人じゃない…

沢山の子が

『神さまの怨結び』第⑧巻／完

to be continued……

あとがき

神さまの怨結びもついに8巻。
今回、神様という縛りから解き放たれ、弱さをさらけ出した蛇様。
クビツリさんとの関係も大きく変わりました。

そして怨結びによって運命を狂わされた者、
運命を呪う者、運命の出会いを果たした者・・・
そんな1巻に登場したヒロイン3人がとうとう
一堂に会することと相成りました。

ずっと裏でクビツリさんを支えてきた叶ちゃんも
ようやく彼と再会を果たすことができ、
作者としても感無量でございます。

ニセ蛇様事件も一件落着(?)、蛇の過去や
怨結びの始まりも明らかに。

・・・と、いったところで新たな舞台がスタートです。
今回は女子だらけの華の園。
なにやら不穏な影もチラチラ見え隠れしておりますが、
怨結びの物語もいよいよ大詰めへと向かってまいります。

今しばし、この怨と縁の奇妙な物語に
お付き合い頂けましたら幸いです。

-Special thanks-
KaeruShinshi
Naharu
Pi-po
Miharu Aoi
Hamano
←Official blog
http://kamishiki.net/
Twitter Kamizuki_S1

神永が語る倒錯した想い。
ソレからメイを何をしても
守ろうと智が決意した時、
智は見ず知らずの男に手を引かれ、
古い樹が佇む場所に跳んでいた。
そこで"あの印"を
無理やり刻まれる智だが——!?
巨木の背徳

三悪の呪い
神さまの縁結び9
かみさまのえんむすび
人の業、その底なしの暗闇——

神さまの怨結び

かみさまのえんむすび

電子特装版

神さまの怨結び 8

❖かみさまのえんむすび

限定特別画集

守月史貴

Champion RED Comics

O ENMUSUBI
AMIZUKI SIKI

KAMISAMA N
Presented by K

42節その後
つかつか
つかつか
止
!!

開

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

ねずみ メイ
根津見 メイ(鳴)
ツヤなし

ともびき さとる
大比木 智
かみなが このみ
神永 このみ(許斐)

チャンピオンRED
コミックス

神（かみ）さまの怨結（えんむす）び 8

2019年9月1日　初版発行

著　者　守月史貴（かみづきしき）

発行者　石井健太朗

発行所　株式会社 秋田書店
〒102-8101　東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎編集(03)3265-1326　販売(03)3264-7248
製作(03)3265-7373
振替口座　00130-0-99353

印刷所　大日本印刷株式会社
Printed in Japan

ISBN978-4-253-23589-1

デジタル版　2019年発行
製作所　デジタルカタパルト株式会社
http://www.digital-catapult.com